

2022年度

卒業生・修了生および就職先からのアンケート調査報告書

2023年10月

宮崎大学工学部・工学研究科

卒業生・修了生および就職先からのアンケート調査結果公表にあたって

工学部長・工学研究科長 鈴木 祥広

宮崎大学工学部では教育の質的向上を目指して、ディプロマポリシーの修得度、有用度に関するアンケートを卒業生・修了生に対して毎年、就職先に対しては3年に1度程度の頻度で実施しています。具体的には、卒業生・修了生に対しては、ディプロマポリシーとして掲げている各種能力を工学部卒業・修了時にどの程度身につけたと感じているか（修得度）、および、その能力が社会人になった後どの程度役立っているか（有用度）を調査しています。また、就職先に対しては、ディプロマポリシーとして掲げている各種能力を自社に就職した卒業生・修了生がどの程度身につけていると感じているか調査しています。

本報告書では、2018年度卒業生を対象とした「卒業生・修了生からのアンケート調査」の集計・分析結果を公表します。また、今年度は2018～2020年度の卒業生に関する「就職先企業からのアンケート調査」についても公表します。さらに、現在工学部で推進している地域産業DX デジタル人材育成事業（産業DX）に関連して、事業開始前の時点での工学部卒業生が産業DX 推進のポテンシャルをどの程度有しているか、就職先企業からアンケート調査した結果も示します。

宮崎大学工学部では、宮崎大学の使命の1つである変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を遂行するために、アンケート調査結果を今後の教育改善の推進に活かします。

最後になりましたが、本調査にご協力いただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

目次

【工学部】

環境応用化学科	1
社会環境システム工学科	4
環境ロボティクス学科	8
機械設計システム工学科	11
電子物理工学科	15
電気システム工学科	18
情報システム工学科	21

【工学研究科】

工学研究科全体	26
環境応用化学分野	29
社会環境システム工学分野	32
環境ロボティクス分野	35
機械設計システム工学分野	37
電子物理工学分野	40
電気システム工学分野	43
情報システム工学分野	46

【産業 DX】

49

工学部

●環境応用化学科

1. 環境応用化学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
② 学校教育	1	100.0
Total	1	100.0

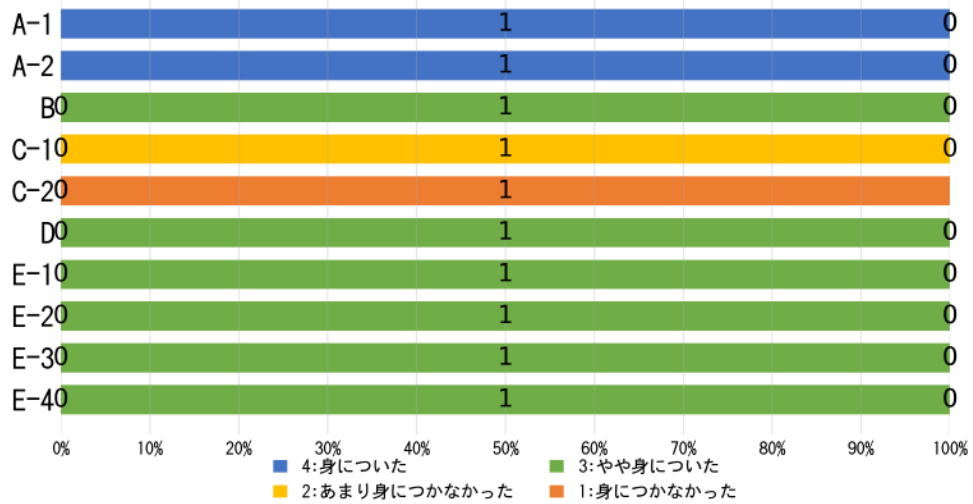
2. 環境応用化学科のディプロマポリシー

- A-1 自然、歴史、文化などの種々の我々を取り巻く環境を理解し、そこにおける自己を把握すると共に地球環境と調和した人類の発展を多面的に考えることができる能力。
- A-2 社会への環境応用化学の役割と使命を理解し、応用化学を基礎とする技術者としての社会への貢献と責任について考えることができる能力。
 - B 変化に対応するための自主的、継続的な学習、および探求をすることができる能力。
- C-1 日本語による論理的な記述力を中心とするコミュニケーション能力。
- C-2 英語の読解ならびに基礎的なコミュニケーションをすることができる能力。
 - D 社会の要求の本質を理解して解決するデザインができ、環境、安全、経済性などの制約を考慮しながら計画的且つ柔軟に問題を解決することができる能力。さらに、チームで仕事を達成することを学ぶ能力。
- E-1 数学、物理学、環境科学および情報科学に関する基礎知識とそれらを応用することができる能力。
- E-2 物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、化学工学、環境化学などの専門基礎知識を修得し、それらを応用することができる能力。
- E-3 物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、化学工学、環境化学などの応用化学に関する問題を解決することができる能力。
- E-4 修得した実験技術に基づき実験を計画・遂行し、得られた結果をまとめ、説明し考察することができる能力。

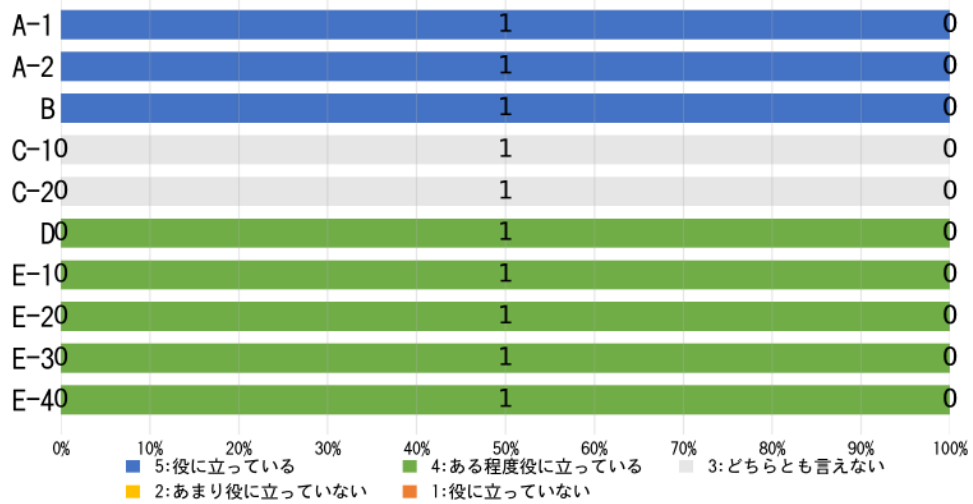
3. 環境応用化学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

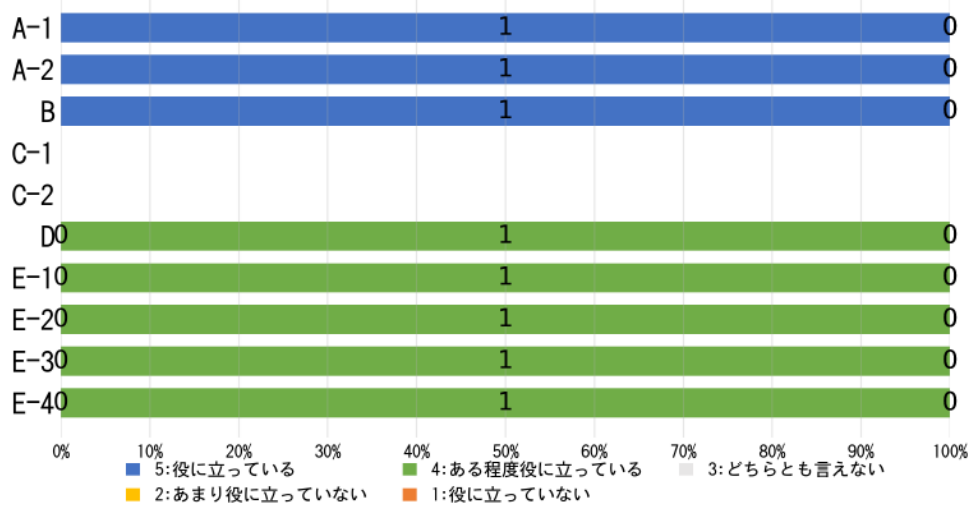
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



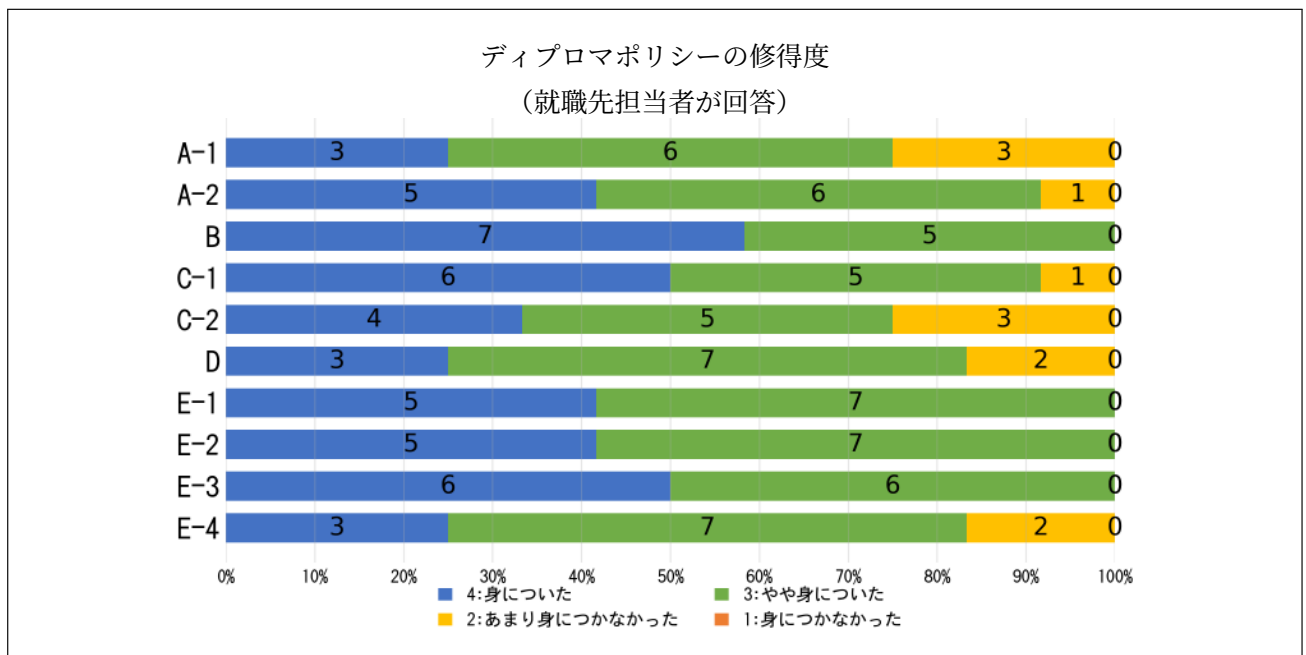
ディプロマポリシーの有用度 (ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 環境応用化学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	16.7
⑤ 化学工業、石油・石炭製品製造業	3	25.0
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	3	25.0
⑪ その他の製造業	3	25.0
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	8.3
Total	12	100.0

5. 環境応用化学科の就職先アンケート結果



6. 環境応用化学科の調査結果評価

【卒業生へのアンケート結果】

回答数1件のため分析困難であるが、回答者はC-1のコミュニケーション能力、C-2の英語能力の習得への習得度へ自己評価が低かった。

【就職先へのアンケート結果】

ディプロマポリシーの習得度についておおむね高い評価が大きいだが、A-1の多面的に考える能力、C-2の英語能力、Dのデザイン能力への評価が相対的には低かった。コロナ禍が収束し、海外に事業所を持つ企業においては現実に英会話能力が求められると見受けられる。個別のコメントにおいては、コミュニケーション能力、専門知識などに高評価を受けた。

●社会環境システム工学科

1. 社会環境システム工学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	7	35.0
⑫ 電気・ガス・熱供給・水道業	1	5.0
⑰ 金融業	1	5.0
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	3	15.0
㉓ 地方公務員	6	30.0
㉔ その他	2	10.0
Total	20	100.0

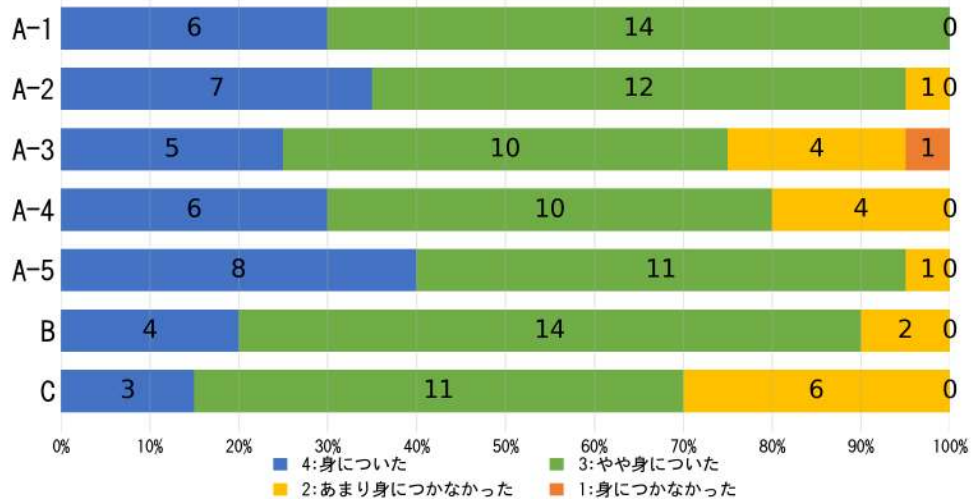
2. 社会環境システム工学科のディプロマポリシー

- A-1 数学を含めた自然科学の知識：土木環境工学の技術者に必要となる専門知識を獲得する際に要求される数学、物理学などの基礎知識と情報処理技術に関する基礎知識を身につけている。
- A-2 コミュニケーション能力：調査・実験・研究内容や成果について図表などを使って正確でわかりやすく記述、発表や質疑応答ができるとともに、専門分野に関する英語を理解・記述するための基礎的な能力を身につけている。
- A-3 自己学習能力：土木環境工学の分野に興味を持ち、演習などを通じて自主的に学習する習慣を身につけている。
- A-4 課題解決能力：土木環境工学の分野における課題の発見から解決にいたる手順や方策を計画・遂行できる能力を身につけている。また、調査や実験を計画・遂行し、結果を正確に解析して考察する一連のプロセスを体得している。また、チームで仕事をするための能力を身につけている。
- A-5 技術者としての倫理：工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解するとともに、公共の福祉の向上と環境保全を使命とする土木環境工学の技術者として必要な倫理・規範や責任を理解・判断できる能力を身につけている。
- B 自然との調和を図りつつ生活・経済・文化・安全・地域を支える社会基盤を計画・設計・管理・評価する上で必要な、計画学系、建設材料工学系、構造工学系、地盤工学系、水理・水工学系、水処理・環境工学系の専門能力を身につけている。
- C 現代の土木環境工学が直面している国内的、国際的問題を理解し、社会の技術者への要請を察知し、技術者のあるべき方向性を理解して適切な行動ができる能力を身につけている。

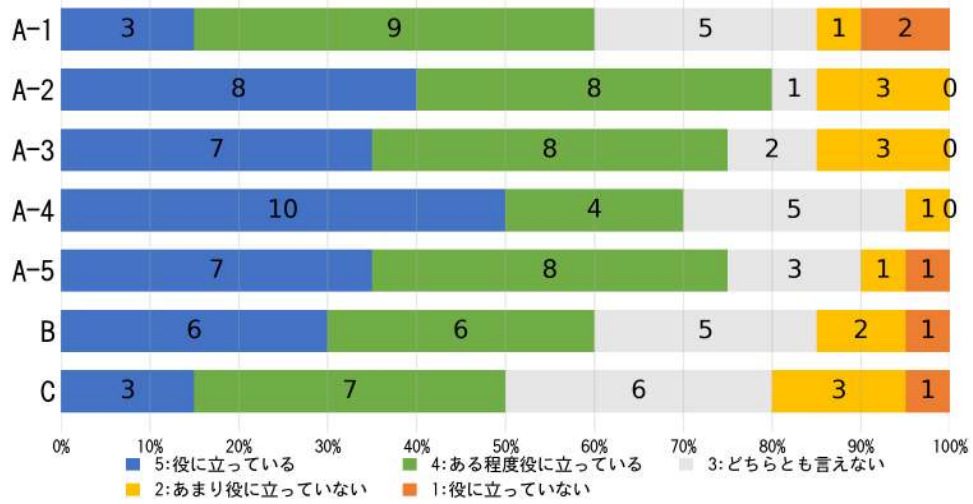
3. 社会環境システム工学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

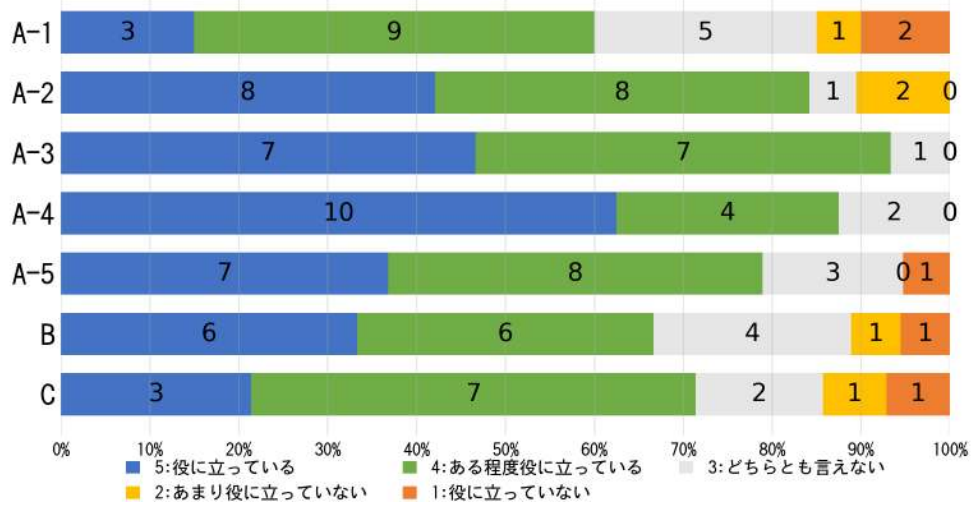
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



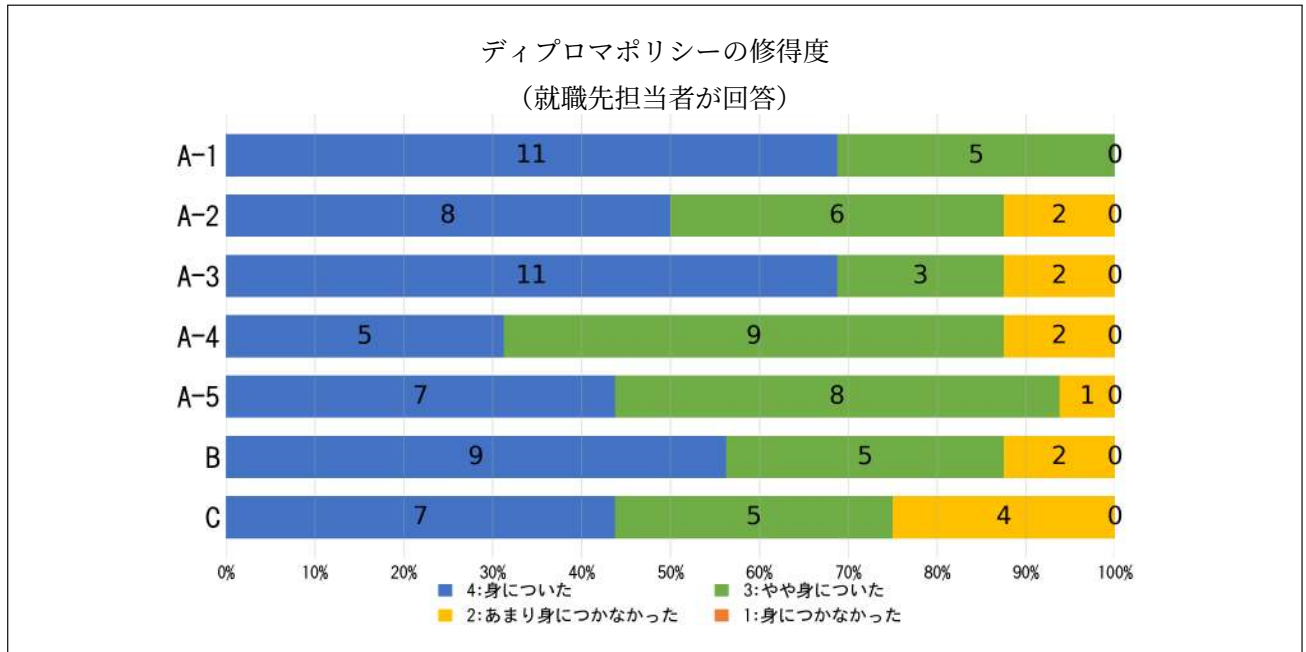
ディプロマポリシーの有用度
(ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 社会環境システム工学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	11	68.8
②① その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	4	25.0
②② 国家公務員	1	6.2
Total	16	100.0

5. 社会環境システム工学科の就職先アンケート結果



6. 社会環境システム工学科の調査結果評価

卒業生 20 名から回答があった。回答のあった業種は主に建設業、公務員、コンサルタントであり、本学科卒業生の就職先業種と一致していることから、おおよそ実態を反映した抽出回答を得られたと考えられる。

ディプロマポリシーの習得度は、いずれの項目も「身についた」、「やや身についた」が 70 % 以上であり、問題はない。ディプロマポリシーの有用度は、「身についた」、「やや身についた」の割合は 50～80 % であり、2～5 割の卒業生が「どちらともいえない」あるいは役に立っていないと回答している。土木や環境の分野は多岐にわたるため、就職先によっては全く使われない知識があることも考えられる。特に就職後 4 年目では、包括的な業務に携わる機会が少ないため、大学で学んだ知識を十分に活かしていない可能性がある。一方、A-2、A-3、A-5 といった、社会人として必要な一般的能力については、75 % 以上がある程度役に立っていると回答している。以上より、卒業生は、おおむね本学科で教育した専門的内容は身についたと判断しているものの、それが職場で十分役立っていると感じていない卒業生も見られた。

就職先からの回答では、「身についた」、「やや身についた」の割合はいずれの項目でも 75 % 以上であり、概ね問題ないと判断された。C について「あまり身につかなかった」が 25 % であり、他の項目に比べて多かった。

以上より、おおむね卒業生にはディプロマポリシーが役立つものとして認識されており、今後も継続し

て本プログラムのポリシーに基づく教育を実践してしていくことが求められる。一方、就職先は総合的な知識に対する行動能力を求めていることがうかがえた。土木環境工学分野が持つ実社会での課題は、これまでの知識では十分対応できない問題（災害対策、人口減少対応、国際貢献など）を多く含んでいる。このため、卒業後4年目の社会人にとっては難しい課題に直面せざるを得ない状況があり、就職先からはCに関する知識が十分に備わっていないと判断された場合があったと考えられた。したがって、「C」に対する教育のあり方について改善が求められる。2021年度からのカリキュラムでは、専門的知識のみではなく、より包括的な知識や経験を得るための授業を取り入れ、より社会の要請を察知し、技術者のあるべき方向性を理解して適切な行動を取れる能力を身に付けさせている。

●環境ロボティクス学科

1. 環境ロボティクス学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	1	14.3
⑤ 化学工業、石油・石炭製品製造業	1	14.3
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1	14.3
⑬ 情報通信業	2	28.6
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	14.3
㉓ 地方公務員	1	14.3
Total	7	100.0

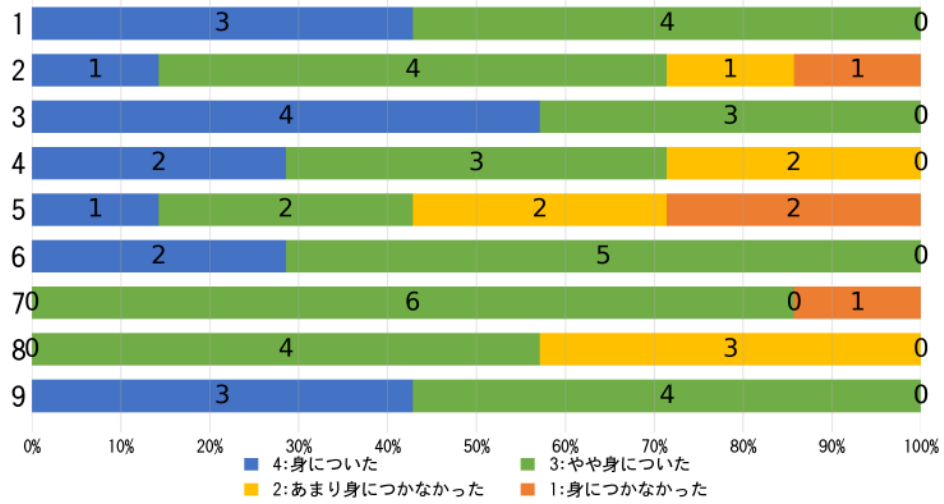
2. 環境ロボティクス学科のディプロマポリシー

- 1 多面的視野：広い視野から多面的に物事を考えることができる。
- 2 倫理規範：社会における技術者の役割や使命を理解し、技術者として必要な倫理や規範を判断することができる。
- 3 チームワーク力：与えられた課題を達成する過程において、グループ討論を通じて得られるチームワーク力（リーダーシップ、協調性）を発揮できる。
- 4 自律性・継続性：課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる。
- 5 言語リテラシー：相手に自分の考えを理解してもらえらる外国語を含むコミュニケーションを実践できる。
- 6 情報リテラシー：多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
- 7 工学デザイン能力：与えられた課題を達成する過程において、自ら問題を発見、整理、解決する基礎能力と工学デザイン能力を活用できる。
- 8 環境及び地域の理解：環境及び地域に関する知識を理解できる。
- 9 専門領域の基礎知識：数学、機械、電気電子、情報、化学などの専門領域の基礎知識を習得し、それを活用できる。

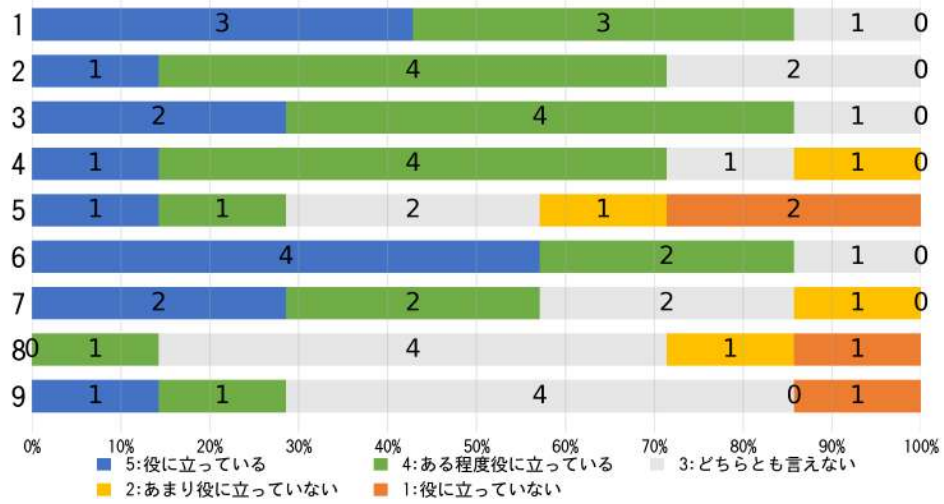
3. 環境ロボティクス学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

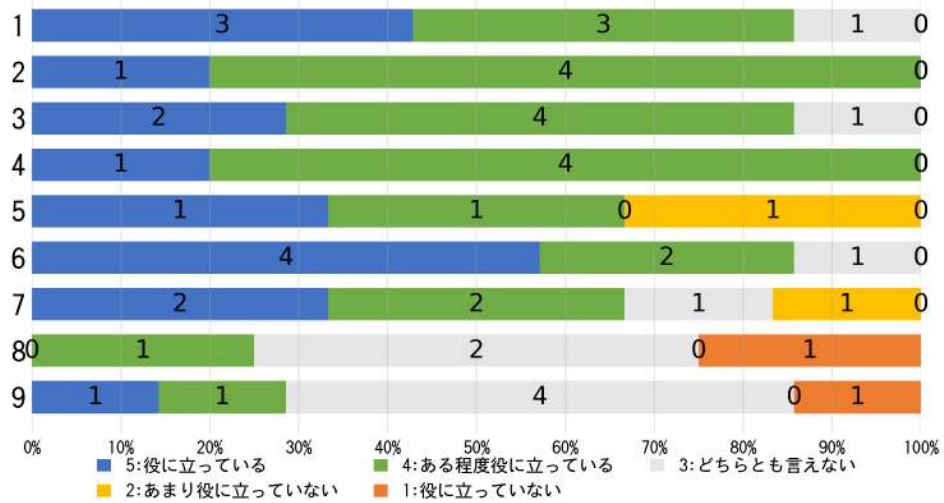
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



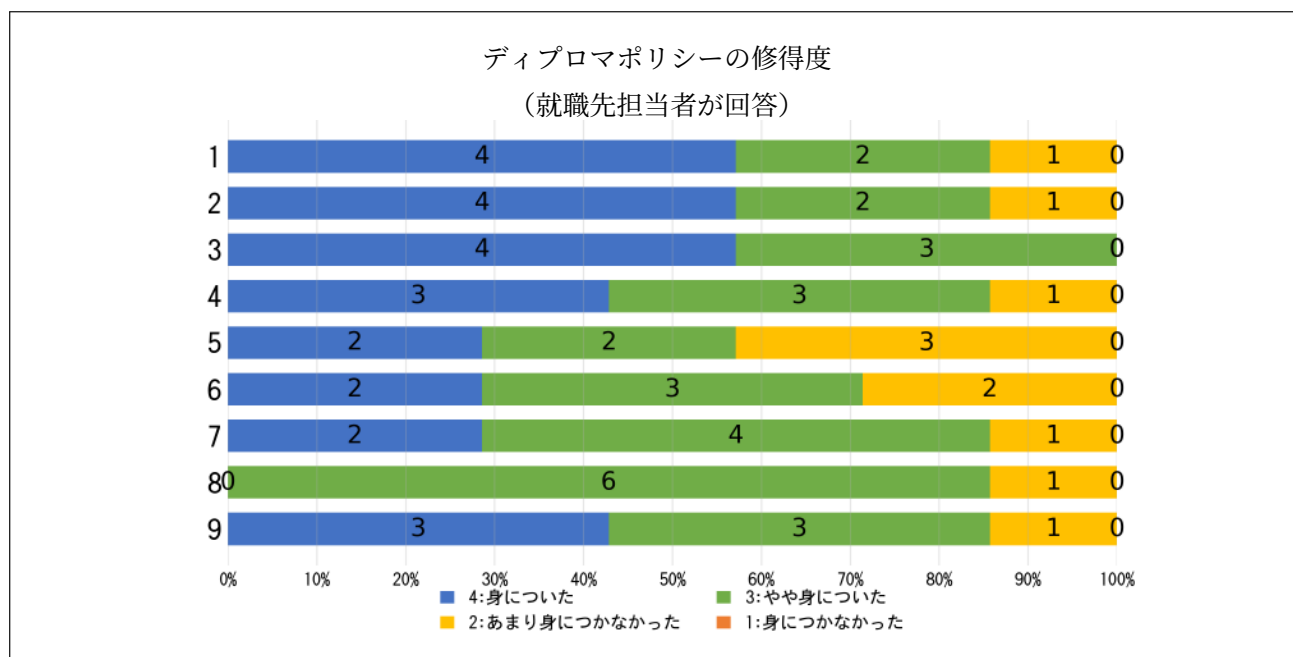
ディプロマポリシーの有用度 (ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 環境ロボティクス学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	28.6
⑪ その他の製造業	2	28.6
⑬ 情報通信業	2	28.6
⑳ その他	1	14.3
Total	7	100.0

5. 環境ロボティクス学科の就職先アンケート結果



6. 環境ロボティクス学科の調査結果評価

卒業生のアンケート結果より、「チームワーク力」、「専門領域の基礎知識」の修得度が高く、「チームワーク力」は有用度も高いとの回答を得ている。企業からも「チームワーク力」は修得度が高いと評価されている。

卒業生のアンケートから有用度として「情報リテラシー」が高いことがわかるが、就職先からの修得度評価では平均程度であり、ギャップがあることがわかる。また「環境及び地域の理解」に関しても、就職先からの修得度評価は平均より低い。

本アンケートの回答職種は、「建設業」「化学工業」「機械用具製造業」「情報通信業」「地方公務員」等であり、多様な分野へ卒業生が就職していることがわかる。このことは、環境ロボティクス学科の特徴である分野融合教育の成果であり、多様な分野へ工学系人材を輩出していることを示す実績である。

●機械設計システム工学科

1. 機械設計システム工学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	3	14.3
② 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	1	4.8
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	3	14.3
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	4.8
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	2	9.5
⑩ 輸送用機械器具製造業	1	4.8
⑪ その他の製造業	1	4.8
⑬ 情報通信業	1	4.8
⑳ 国家公務員	3	14.3
㉑ 地方公務員	2	9.5
㉒ その他	3	14.3
Total	21	100.0

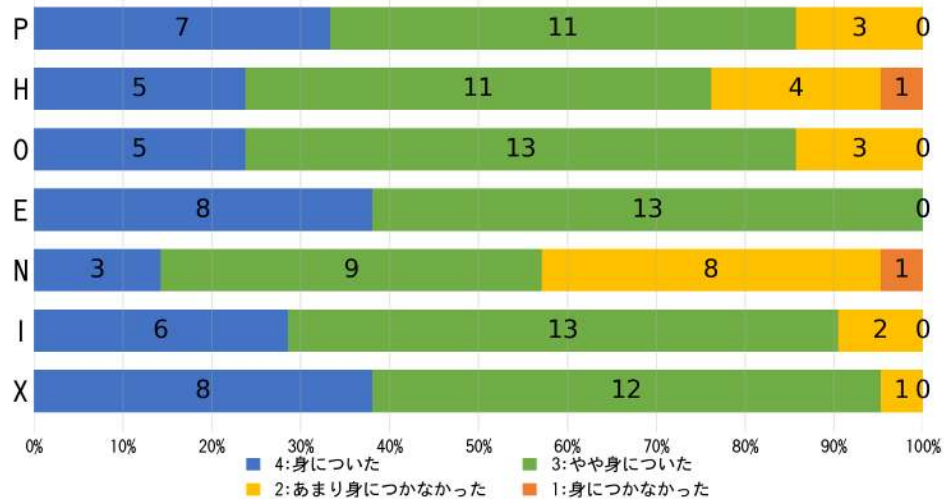
2. 機械設計システム工学科のディプロマポリシー

- P 社会の要求や制約に応えるため、自主的に計画して、それを継続的に実行できる能力
- H 人と機械との共存や機械と自然との調和を考えるための能力
- O 社会秩序や自然環境保護に対する技術者の責務を考える能力
- E 機械技術者としての工学の基礎および専門的知識
- N 自然環境を維持するために、資源とエネルギーの有効利用を考える能力
- I 自分のアイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力
- X 得られた成果を吟味し、まとめる能力

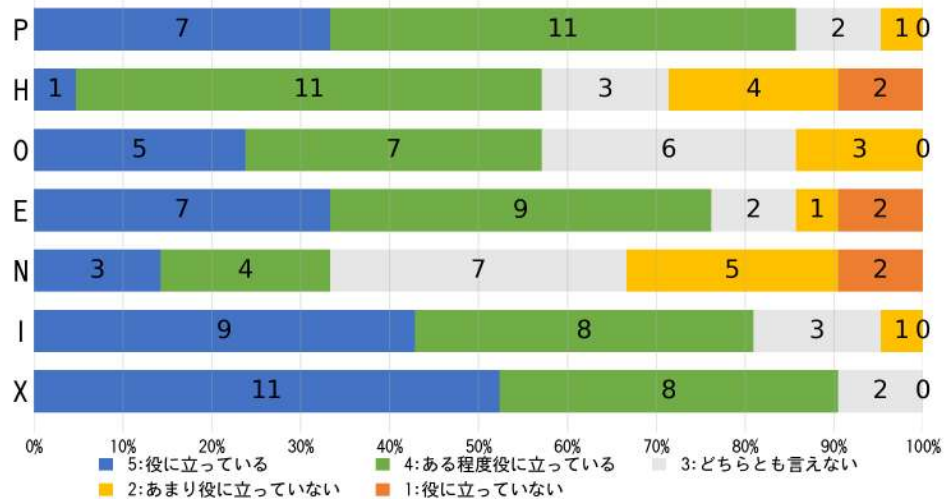
3. 機械設計システム工学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

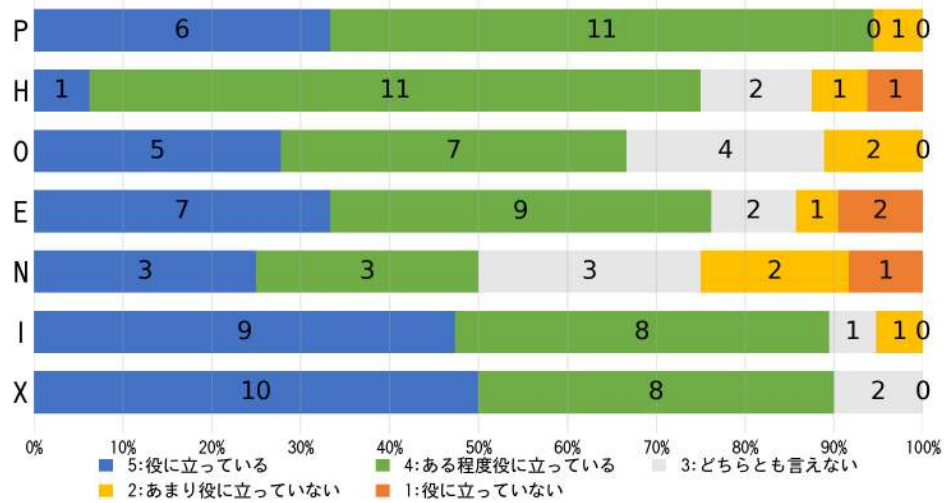
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



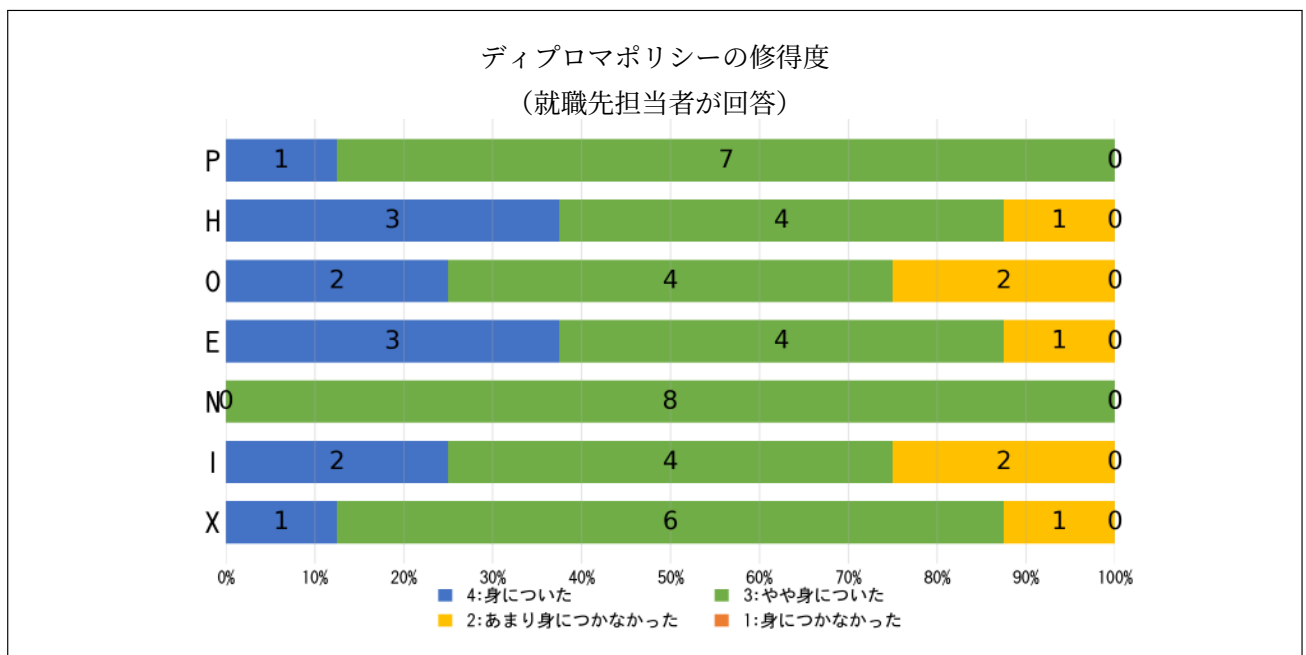
ディプロマポリシーの有用度
(ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 機械設計システム工学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑥ 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	1	12.5
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1	12.5
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	12.5
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	2	25.0
⑩ 輸送用機械器具製造業	1	12.5
⑪ その他の製造業	1	12.5
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	12.5
Total	8	100.0

5. 機械設計システム工学科の就職先アンケート結果



6. 機械設計システム工学科の調査結果評価

1) 回答者の業種から見た評価

卒業生の業種別回答者については、回答数の人数割合は卒業生の就職先業種別の人数割合を反映していないが、ほとんどの卒業生が工学部の目指している分野に就職していた。就職先の業種別回答者については、回答数は少ないものの、機械設計システム工学科卒業生の就職先の業種をカバーしている。

2) ディプロマポリシーについて

卒業生が評価するディプロマポリシーの修得度については、P, H, O, E, N, I, X いずれの項目についても肯定的な回答であった。特に E の評価が高く、工学の基礎および専門的知識を十分修得したものと考えられる。また、P, I, X が高いことから、多くの卒業生は、自主的に計画を立て、専門知識を活用して問題解決し、その成果をまとめ説明する能力を身に付けたと自己評価している。ディプロマポリシーの有用度については、N の項目以外は、肯定的であり、修得度が高かった P, I, X の項目が特に高い。また、修得度が 4 または 3 と評価した卒業生は、ディプロマポリシーの有用度が高くなる傾向が見える。

就職先が評価するディプロマポリシーの修得度については、卒業生自身の評価よりもさらに肯定的な回答であり、1の評価の項目はなかった。卒業生の評価が低かったNの項目については就職先での評価はすべて3であり、資源とエネルギーを有効利用する能力も身につけているものと考えられる。

●電子物理工学科

1. 電子物理工学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	33.3
⑫ 電気・ガス・熱供給・水道業	1	33.3
⑳ 国家公務員	1	33.3
Total	3	100.0

2. 電子物理工学科のディプロマポリシー

- A-1 自然界や社会における問題を様々な立場から理解する能力を身につける。
- A-2 社会における工学の役割や使命を理解し、技術者として必要な技術者倫理や情報倫理を身につける。
- B-1 数学・物理学を中心とした工学基礎知識を習得する。
- B-2 工学の基礎となる力学、電磁気学、物性物理学、量子力学、電気回路などに関する知識を習得する
- B-3 実験によって物理現象を確認するとともに、実験技法を修得する。
- B-4 電子物性工学、物理計測工学に関わる基本原理を理解し、その応用能力を身につける
- C-1 自分の考えを論理的にまとめ、相手に文書やプレゼンテーションで正確に伝えると共に、相手の話している内容を理解する能力を身につける。
- C-2 円滑な課題解決のためのチームワーク力を身につける。
- C-3 工学的な内容について書かれた英語文献等を理解するための基礎的能力を身につける。
- D-1 与えられた課題を達成する過程において、自ら問題を発見し、それを整理する基礎能力を身につける。
- D-2 問題を解決し、その結果をまとめて工学的に考察できる能力を身につける。
- D-3 さまざまな条件を考慮して問題を解決するための仕組み(手順)を構築する能力を身につける。
- D-4 自主的・継続的に課題に取り組む能力を身につける

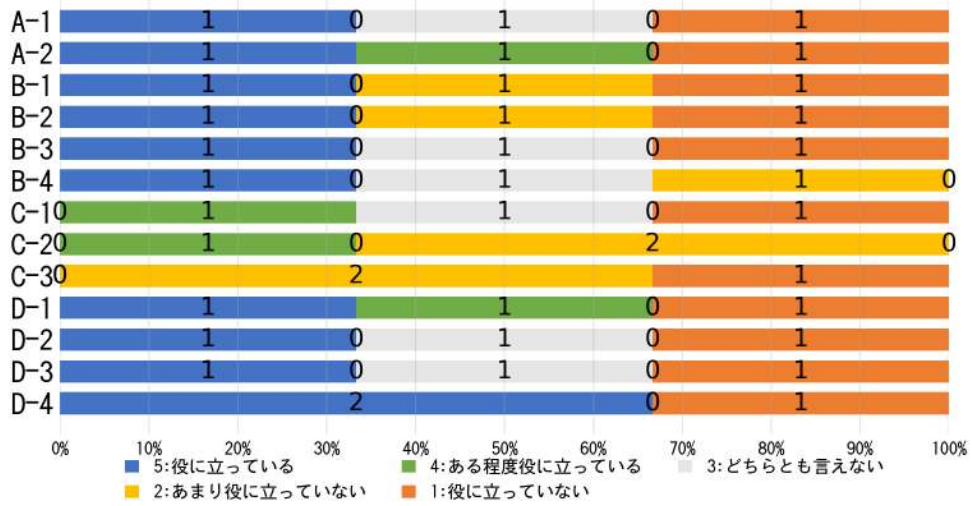
3. 電子物理工学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

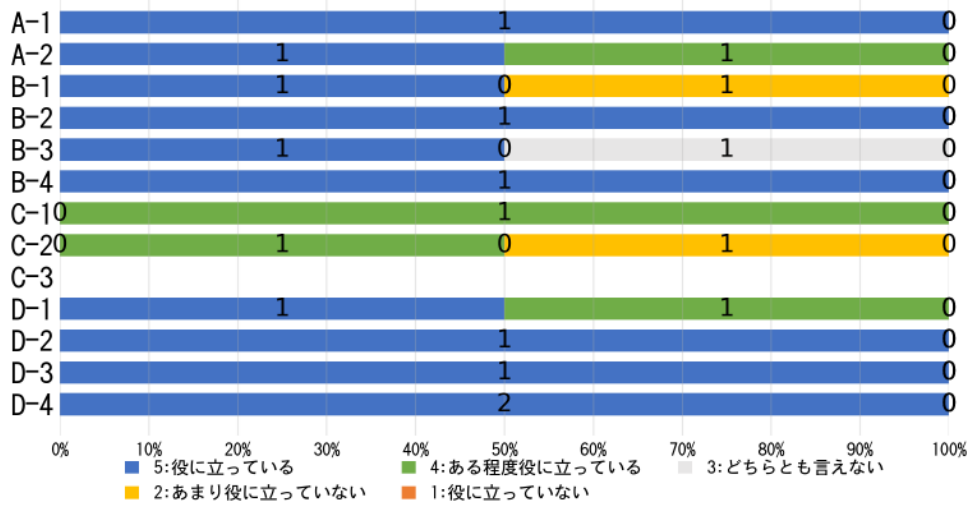
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



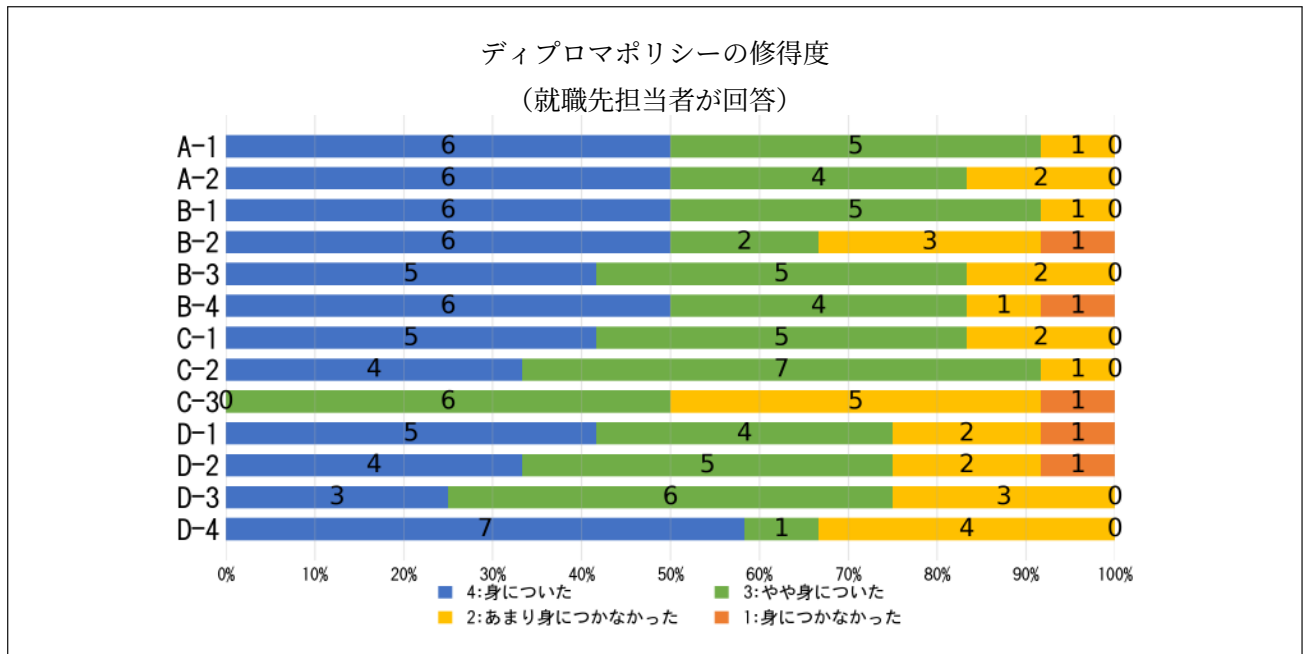
ディプロマポリシーの有用度
(ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 電子物理工学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	16.7
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	4	33.3
⑩ 輸送用機械器具製造業	4	33.3
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	2	16.7
Total	12	100.0

5. 電子物理工学科の就職先アンケート結果



6. 電子物理工学科の調査結果評価

1) 卒業生の業種から見た評価

- 回答者数が少ないため、電子物理工学科の目指している業種に就職しているかを判断できない。

2) ディプロマポリシーについて

- 卒業生の回答者数が少ないため修得度については判断が難しい。ただし、B-4（電子物理工学、物理計測工学に関わる基本原理を理解し、その応用能力を身につける）については概ね身についたと判断できる。一方、C-3（工学的な内容について書かれた英語文献等を理解するための基礎的能力を身につける）については修得できなかったと判断できる。
- 有用度については、修得できなかった C-3 の有用度が低く、D-4（自主的・継続的に仮題に取り組む能力を身につける）の有用度が高かった。
- 就職先担当者の回答では、C-3 以外の項目全てで高い修得度であったと判断できる。

●電気システム工学科

1. 電気システム工学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	3	100.0
Total	3	100.0

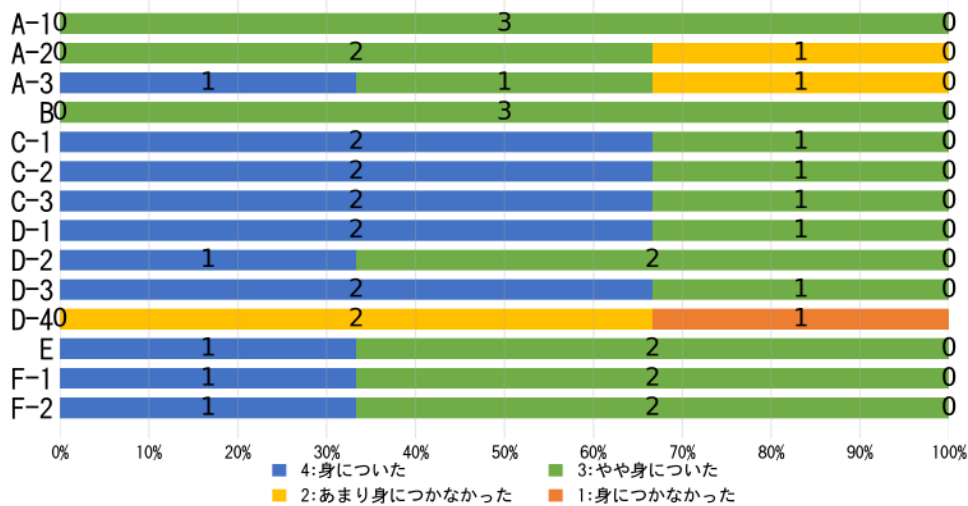
2. 電気システム工学科のディプロマポリシー

- A-1 広い視野から多面的に物事を考える能力を身につける。
- A-2 技術者にとって必要となる数学を含めた自然科学の知識を身につける。
- A-3 専門基礎として電磁気学、電気回路などの知識を身につける。
 - B 電気エネルギーおよび情報通信分野に関する専門技術と実践能力を身につける。
- C-1 問題を発見、整理する能力を身につける。
- C-2 チームで考察と議論ができる。
- C-3 解決した問題点を総合的に考察できる能力を身につける。
- D-1 日本語で論理的な記述ができる能力を身につける。
- D-2 プレゼンテーションの技術を習得する。
- D-3 内容を理解し、要点をまとめる能力を身につける。
- D-4 英語の文献や資料を読み、理解できる能力を身につける。
 - E 技術者に求められる倫理観を身につける。
- F-1 課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる。
- F-2 問題解決のために文献調査や整理する能力を身につける。

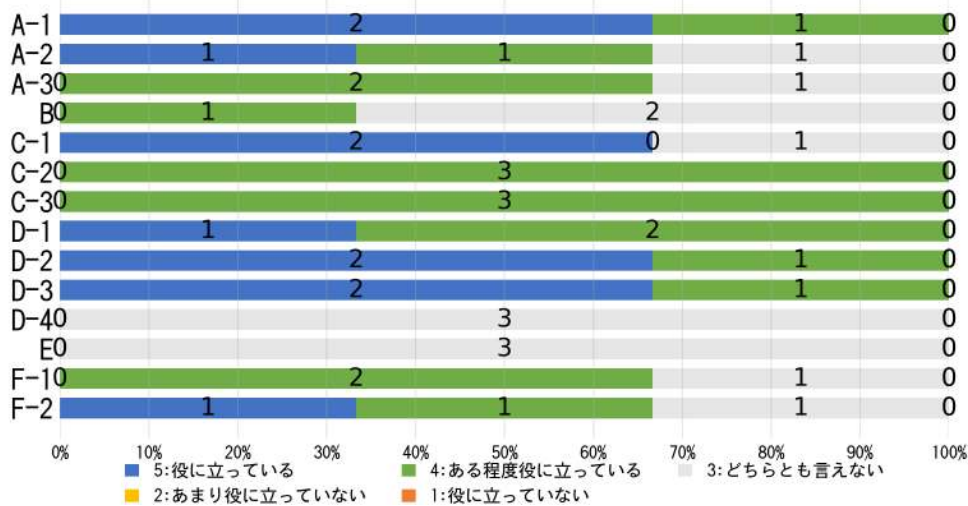
3. 電気システム工学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

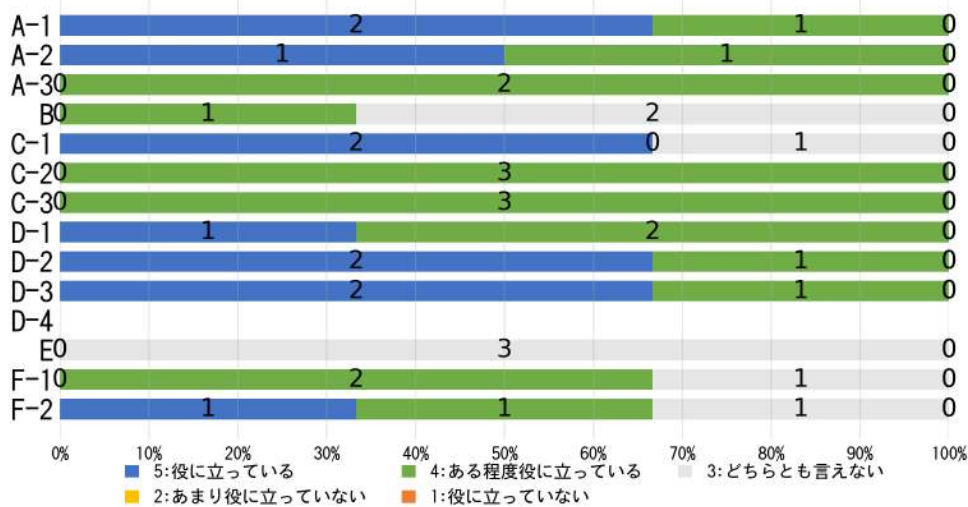
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



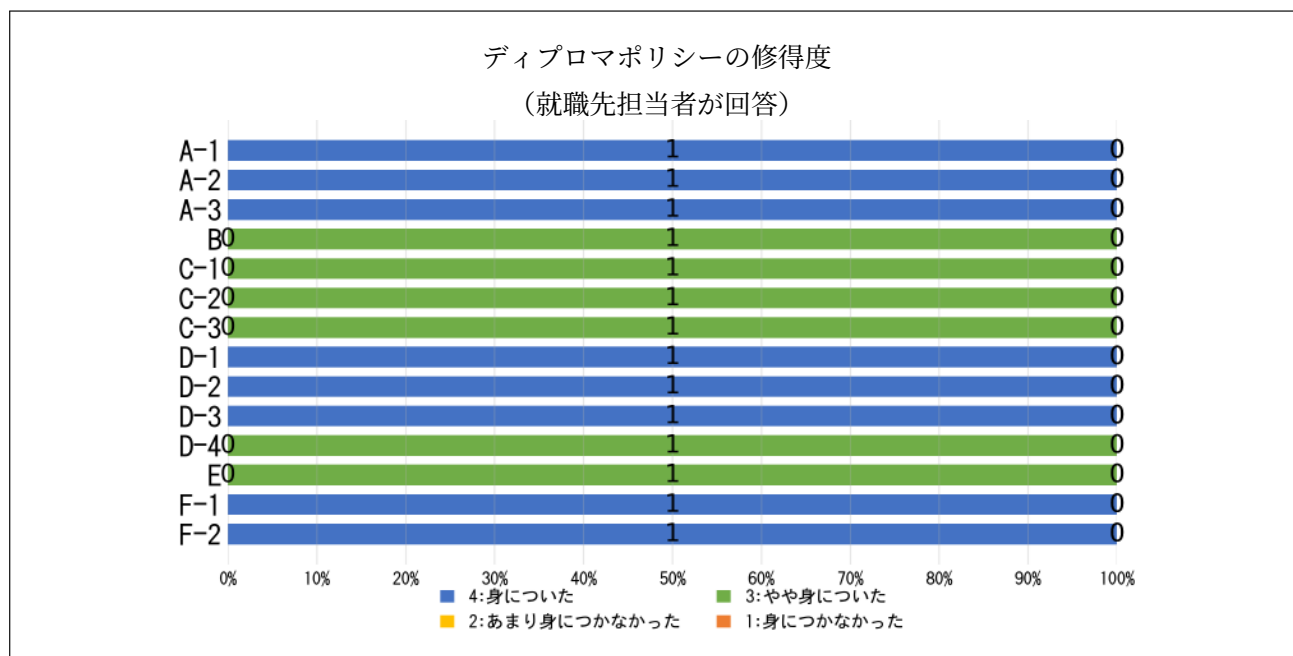
ディプロマポリシーの有用度 (ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 電気システム工学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	100.0
Total	1	100.0

5. 電気システム工学科の就職先アンケート結果



6. 電気システム工学科の調査結果評価

1) 卒業生の業種から見た評価

回答者数が多くないが、学生は電気システム工学科の目指している分野に就職している。

2) ディプロマポリシーについて

ディプロマポリシーの修得度については、全ての項目について概ね身につけている（「4身につけている」と「3やや身につけている」の合計）とする割合が高かった。特に、C-1、C-2、C-3、D-1、D-2、F-1、F-2は、電気システム工学基礎実験、電気システム工学応用実験、電気システム工学プロジェクト実験Ⅰ及びⅡ、電気システム工学課題演習Ⅰ及びⅡの課題探求、課題解決型の科目の学習成果が反映されているものと終われる。

一方、D-4の英語の文献や資料を読み、理解できる能力を身につける項目については、身につかなかったとの回答が寄せられている。入学時から英語を苦手とする学生が多いことが大きな要因と思われるが、英語文献の読み合わせの時間を特別に設けるなどの工夫が必要かもしれない。ディプロマポリシーの有用度においては、D-4の英語に関するものの他、Eの技術者に求められる倫理観について有用度がないとの回答が寄せられている。就職して間もないことから、必要性を強く感じるようなシチュエーションを経験していない可能性があると考えられる。

●情報システム工学科

1. 情報システム工学科の卒業生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑬ 情報通信業	11	64.7
⑮ 卸売業	1	5.9
⑯ 小売業	1	5.9
⑲ 学術・開発研究機関	1	5.9
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	2	11.8
㉑ 学校教育	1	5.9
Total	17	100.0

2. 情報システム工学科のディプロマポリシー

A-1 問題を環境、人間、文化、社会、地域、国際関係などの側面から多面的にとらえる素養

A-2 工学技術者が社会に及ぼす影響や技術者としての倫理的責任を理解する素養

A-3 数学、物理、化学、生命科学などの工学者としての基礎知識を習得し、それを応用することができる素養

B-1 数学及び情報科学の理論の基礎を理解し、情報工学の様々な問題に応用することができる能力

B-2 計算機システムの構成や動作に関する知識を習得し、ソフトウェア開発に応用することができる能力

B-3 問題を解決するために、既存のアプリケーションソフトを利用でき、かつ、自らプログラムを作成することができる能力

B-4 ユーザの要求を分析し、要求を満たす情報システムをデザインし、実装し、評価することができる能力

C-1 自分の考えを伝え相手の考えを理解するための、日本語による論理的な記述、プレゼンテーション及び討議を行うことができる能力

C-2 英語による情報を理解し、基礎的なコミュニケーションを行うことができる能力

C-3 情報技術の進化に対応していくために、主体的かつ継続的な学習の必要性を理解できる能力

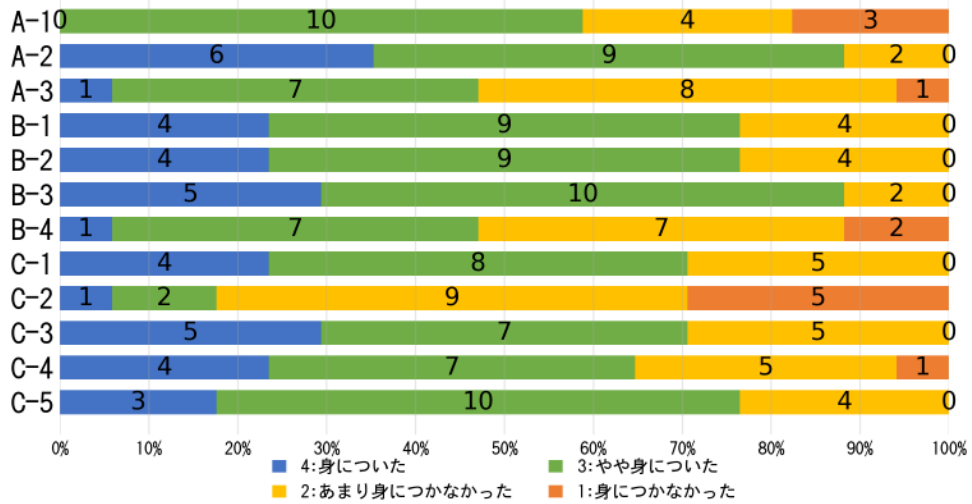
C-4 与えられた制約の下で課題を解決するために、計画的にその課題に取り組むことができる能力

C-5 チームとして目標を共有し、コミュニケーションを図りつつ問題解決に取り組むことができる能力

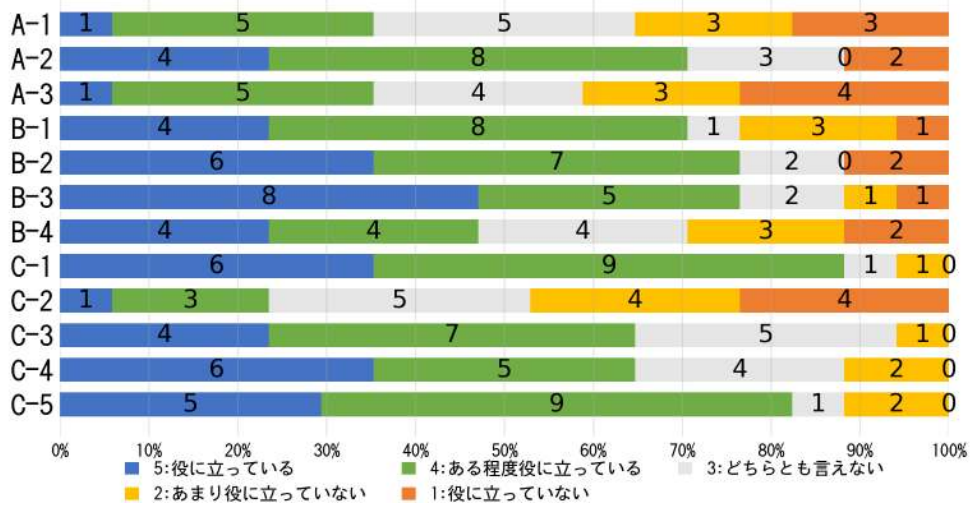
3. 情報システム工学科の卒業生アンケート結果

(次頁)

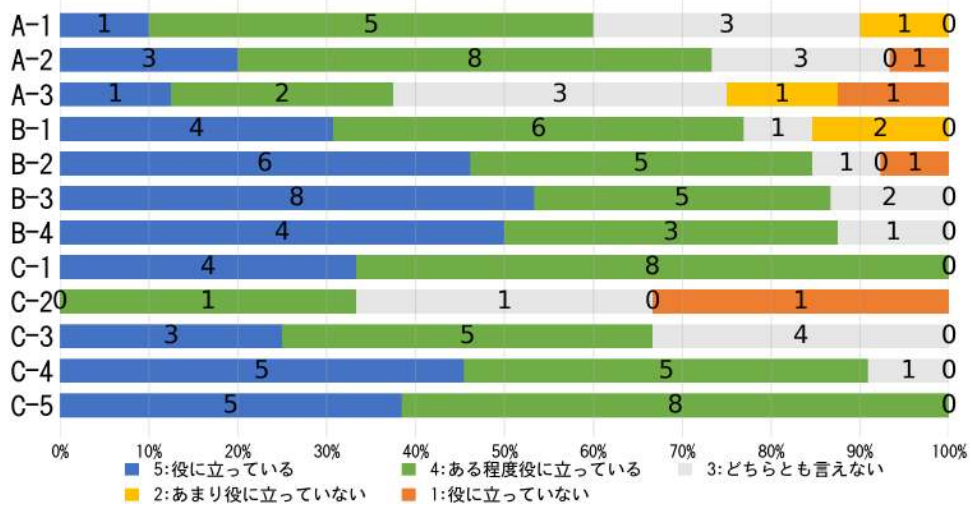
ディプロマポリシーの修得度



ディプロマポリシーの有用度



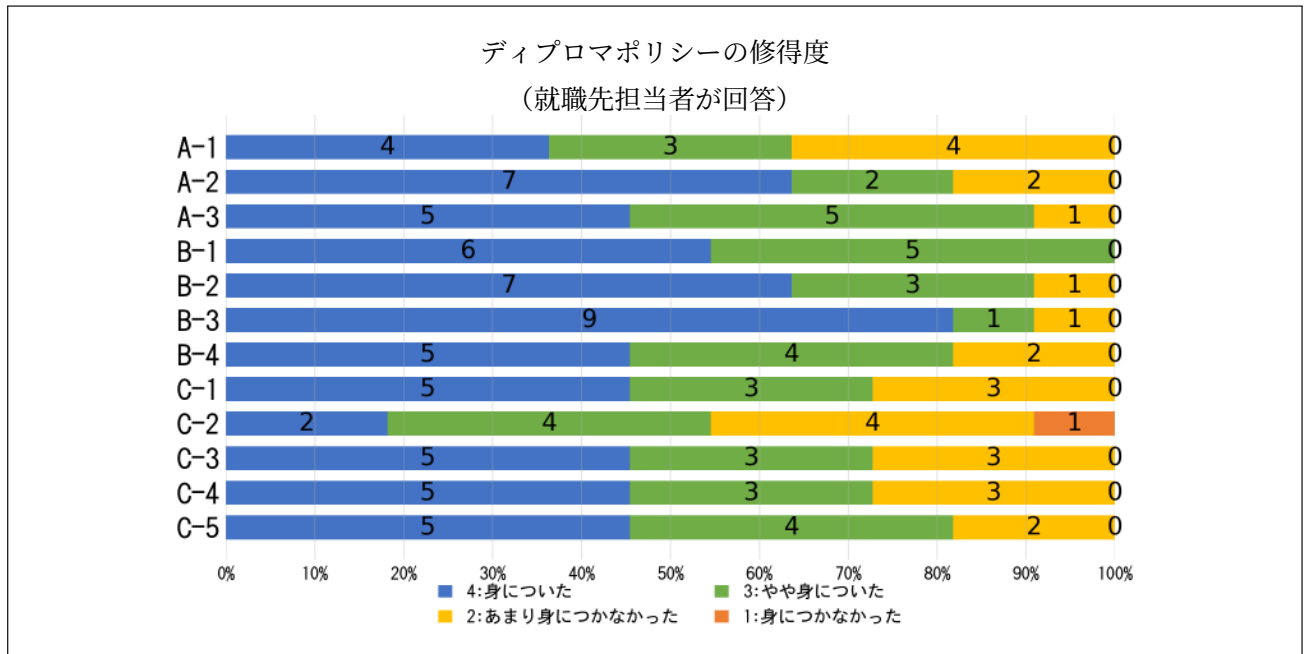
ディプロマポリシーの有用度 (ディプロマポリシー修得度 4 or 3 回答者の集計)



4. 情報システム工学科の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	1	9.1
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	9.1
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	2	18.2
⑬ 情報通信業	6	54.5
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	9.1
Total	11	100.0

5. 情報システム工学科の就職先アンケート結果



6. 情報システム工学科の調査結果評価

1) 卒業生の業種から見た評価

卒業生 17 名からのアンケートに対する回答があった。そのうち 64 %が情報通信業で働いている卒業生からのものであった。半数以上の卒業生が 情報システム工学科の目指している分野に就職をしていることから、学科のカリキュラム設計方針に問題はないと考える。

2) ディプロマポリシーについて

修得度については、C-2 (英語によるコミュニケーション能力) を除くと、身についている (「身についた」と「やや身についた」) とする割合が 40 %以上あり、有用度も高いと回答している。C-2 については半数以上の卒業生が身についていない (「あまり身につかなかった」と「身につかなかった」) とし、約半数の卒業生が有用度も「あまり役に立っていない」または「役に立っていない」と回答している。就職先担当者へのアンケート結果も同様な傾向が示されている。英語によるコミュニケーション能力は必要であると考え、実際には必要としない職場も多いのではないかと考える。

以上から、現在の情報システム工学科のカリキュラム設計には特に問題はないと考える。卒業生の各職場で、どのくらい英語によるコミュニケーション能力が必要とされているのか、というアンケート項目を

増やし、調査を実施してもよいのではないかと考える。

工学研究科

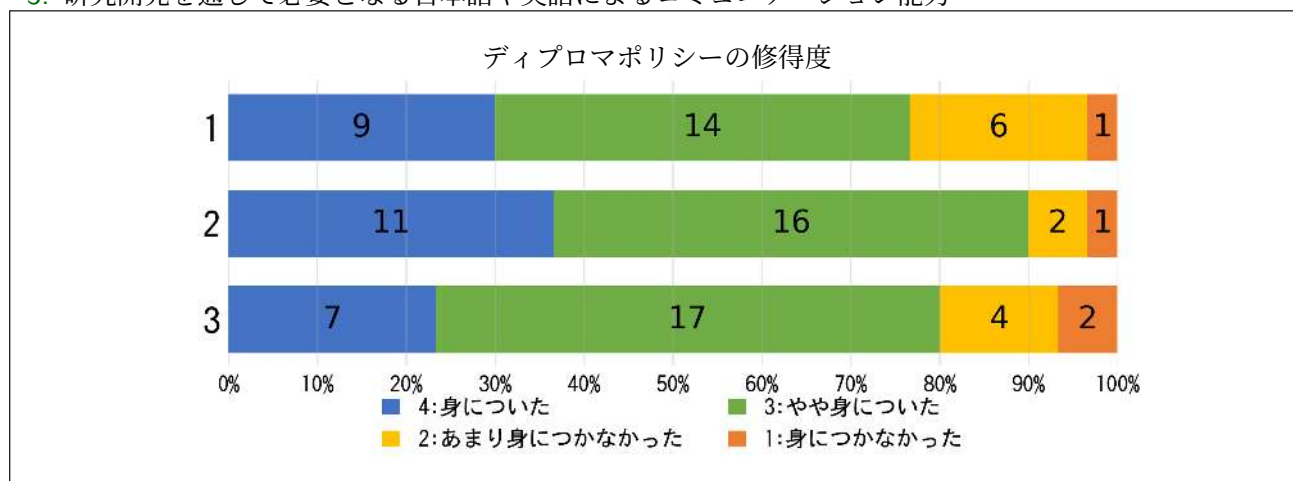
●工学研究科全体

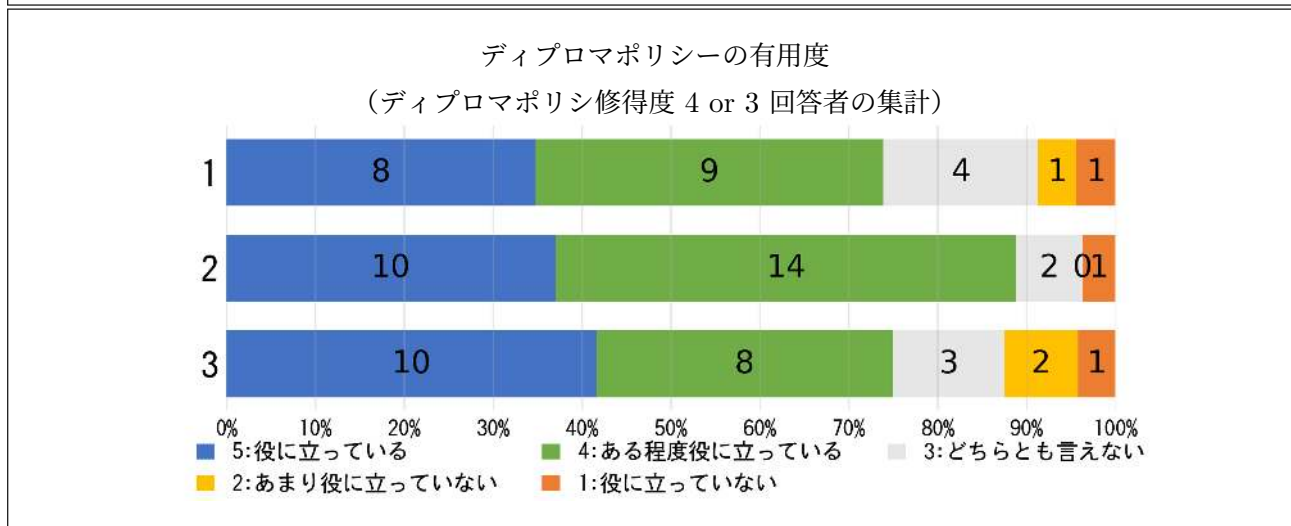
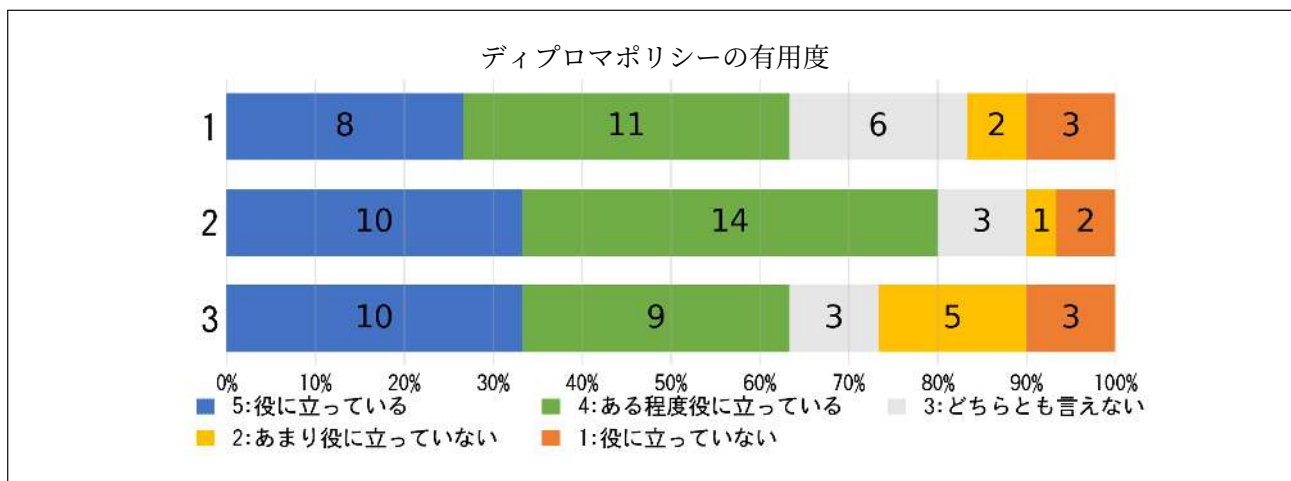
1. 工学研究科全体の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	6	20.0
② 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	1	3.3
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1	3.3
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	2	6.7
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	4	13.3
⑩ 輸送用機械器具製造業	1	3.3
⑪ その他の製造業	1	3.3
⑫ 電気・ガス・熱供給・水道業	2	6.7
⑬ 情報通信業	5	16.7
⑰ 金融業	1	3.3
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	3.3
㉒ 国家公務員	2	6.7
㉓ 地方公務員	1	3.3
㉔ その他	2	6.7
Total	30	100.0

2. 工学研究科全体の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探索し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

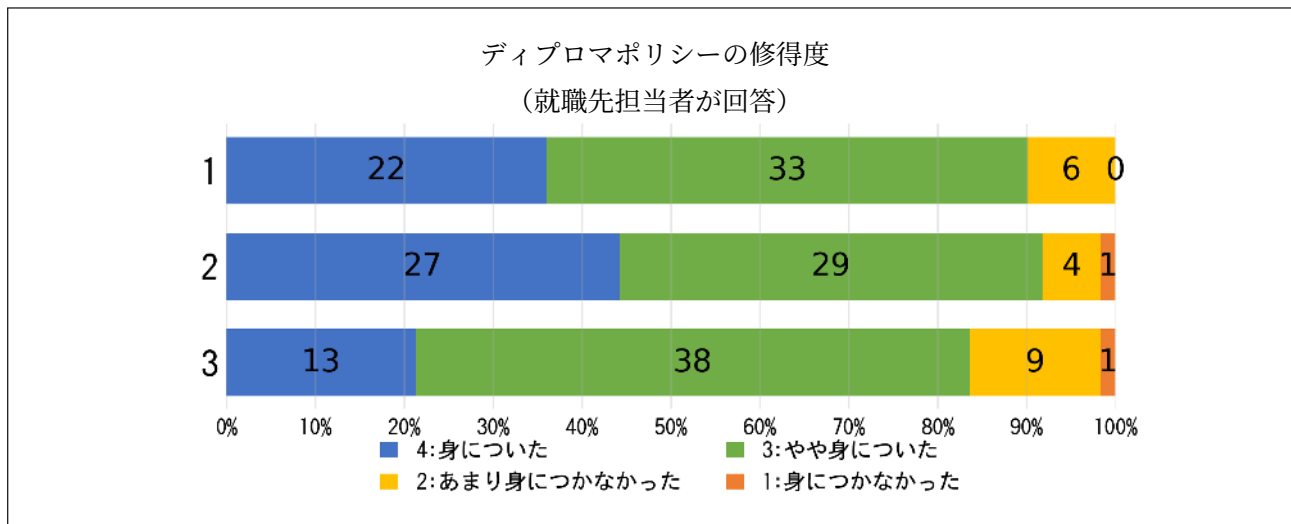




3. 工学研究科全体の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	18	29.5
⑤ 化学工業、石油・石炭製品製造業	1	1.6
⑥ 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	1	1.6
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1	1.6
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	9	14.8
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	4	6.6
⑩ 輸送用機械器具製造業	5	8.2
⑪ その他の製造業	6	9.8
⑬ 情報通信業	7	11.5
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	7	11.5
㉒ 国家公務員	1	1.6
㉔ その他	1	1.6
Total	61	100.0

4. 工学研究科全体の就職先アンケート結果



5. 工学研究科全体の調査結果評価

工学研究科で想定される幅広い分野の修了生、就職先から回答を頂いた。

【修了生からのアンケート結果】

ディプロマポリシー (DP) の修得度では、全体に身についたという回答の割合が高い。中でも、DP2 が相対的に高く、昨年度と比較しても高い結果となった。修士課程での主体的な教育研究活動の成果が見られる。

有用度については、60 %以上が役に立っていると回答しており、有用性は高いと言える。

【就職先からのアンケート結果】

DP1 ~ 3 の全てについて、身についているという回答の割合が84~92 %となっており、就職先の修了生に対する評価は高い。前回、3年前のアンケート結果と比較しても、高い評価を維持しており、大きな問題はないと考えられる。

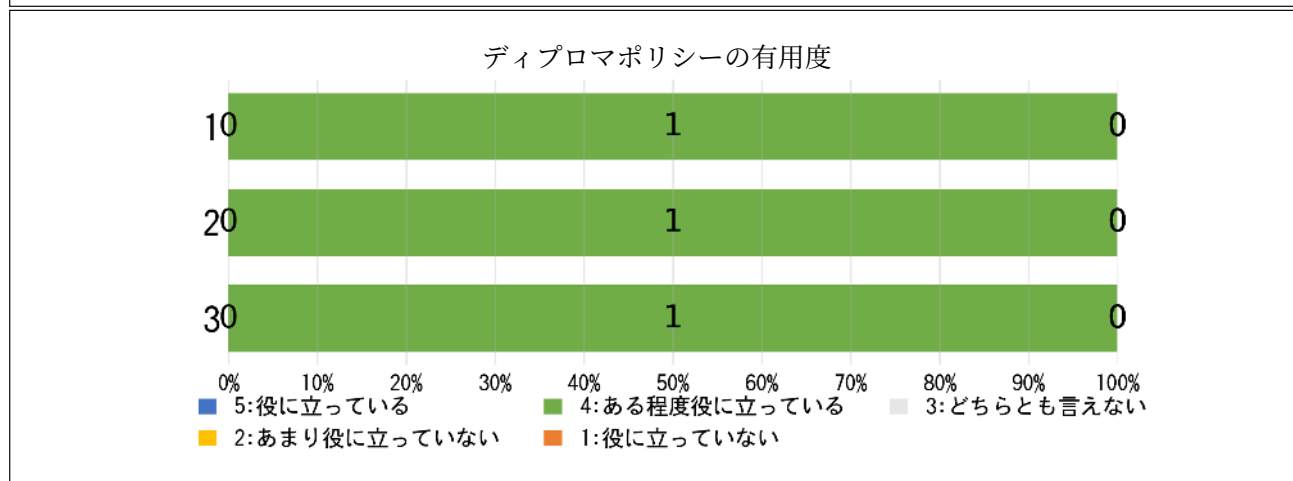
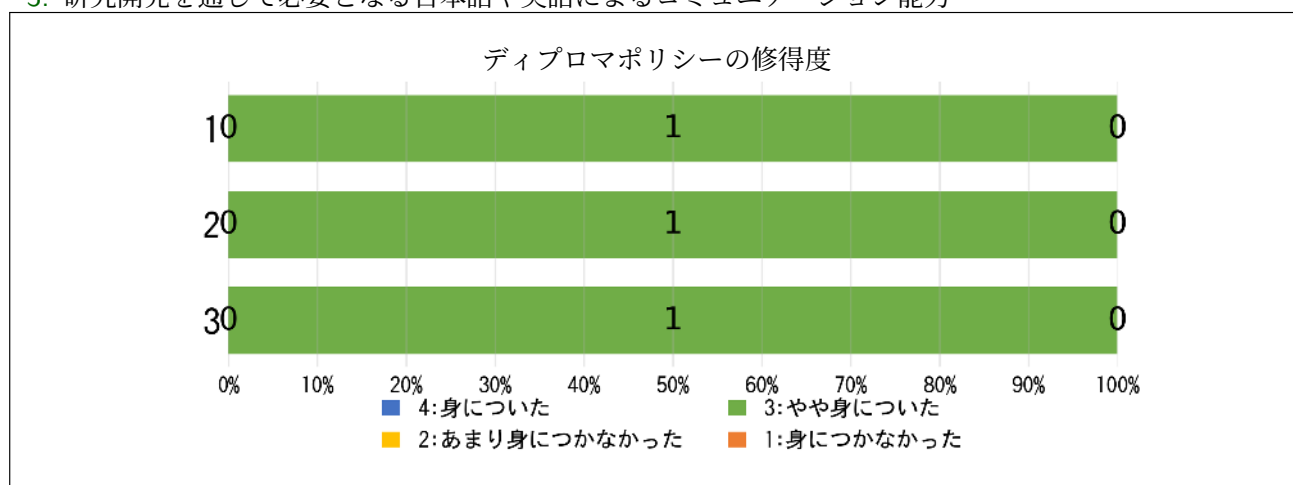
●環境応用化学分野

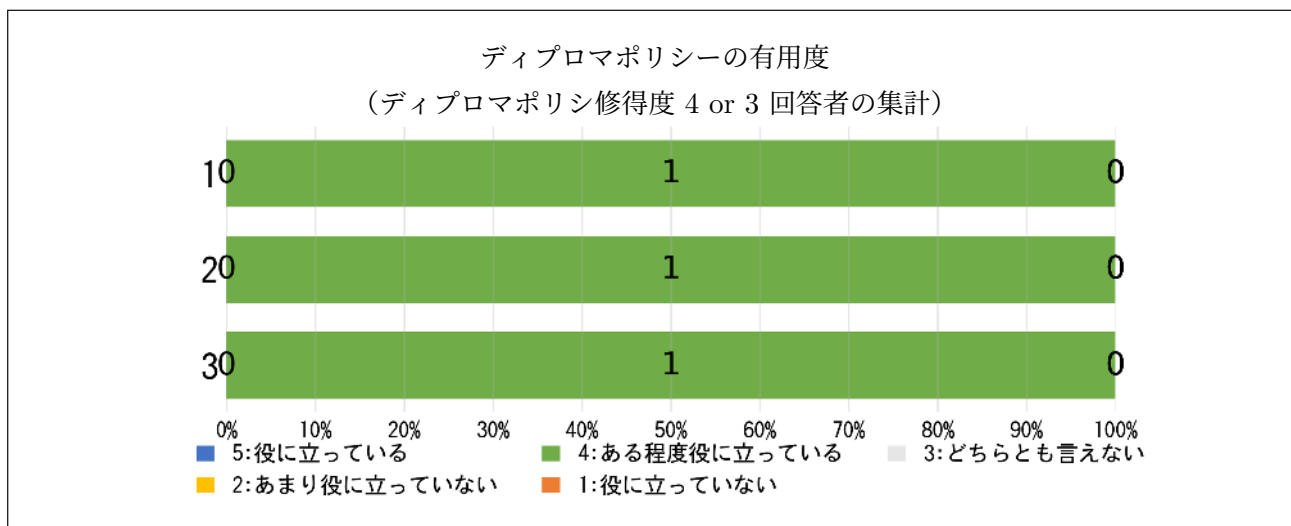
1. 環境応用化学分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	1	100.0
Total	1	100.0

2. 環境応用化学分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

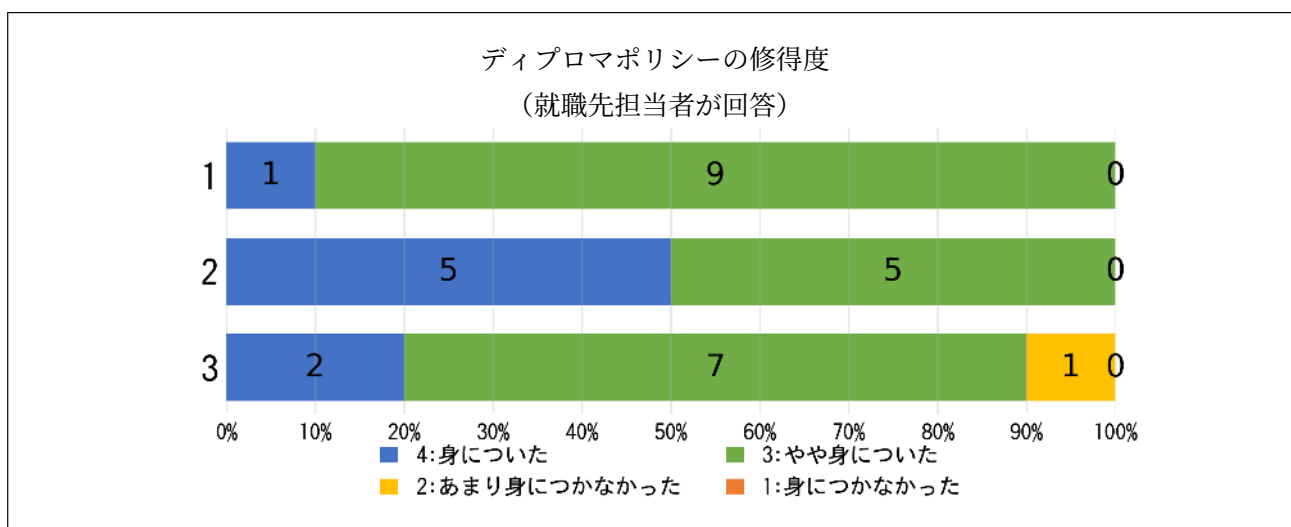




3. 環境応用化学分野の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	20.0
⑤ 化学工業、石油・石炭製品製造業	1	10.0
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	3	30.0
⑪ その他の製造業	3	30.0
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	10.0
Total	10	100.0

4. 環境応用化学分野の就職先アンケート結果



5. 環境応用化学分野の調査結果評価

【修了生へのアンケート結果】

回答数1件のため分析困難であるが、回答者はディプロマポリシーの習得度・有用度に対しておおむね高い評価をしていた。

【就職先へのアンケート結果】

2の「自ら課題を探究し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力」への評価が特

に高く、修了生の高度専門技術者としての能力に比較的高い評価が得られていることが確認された。

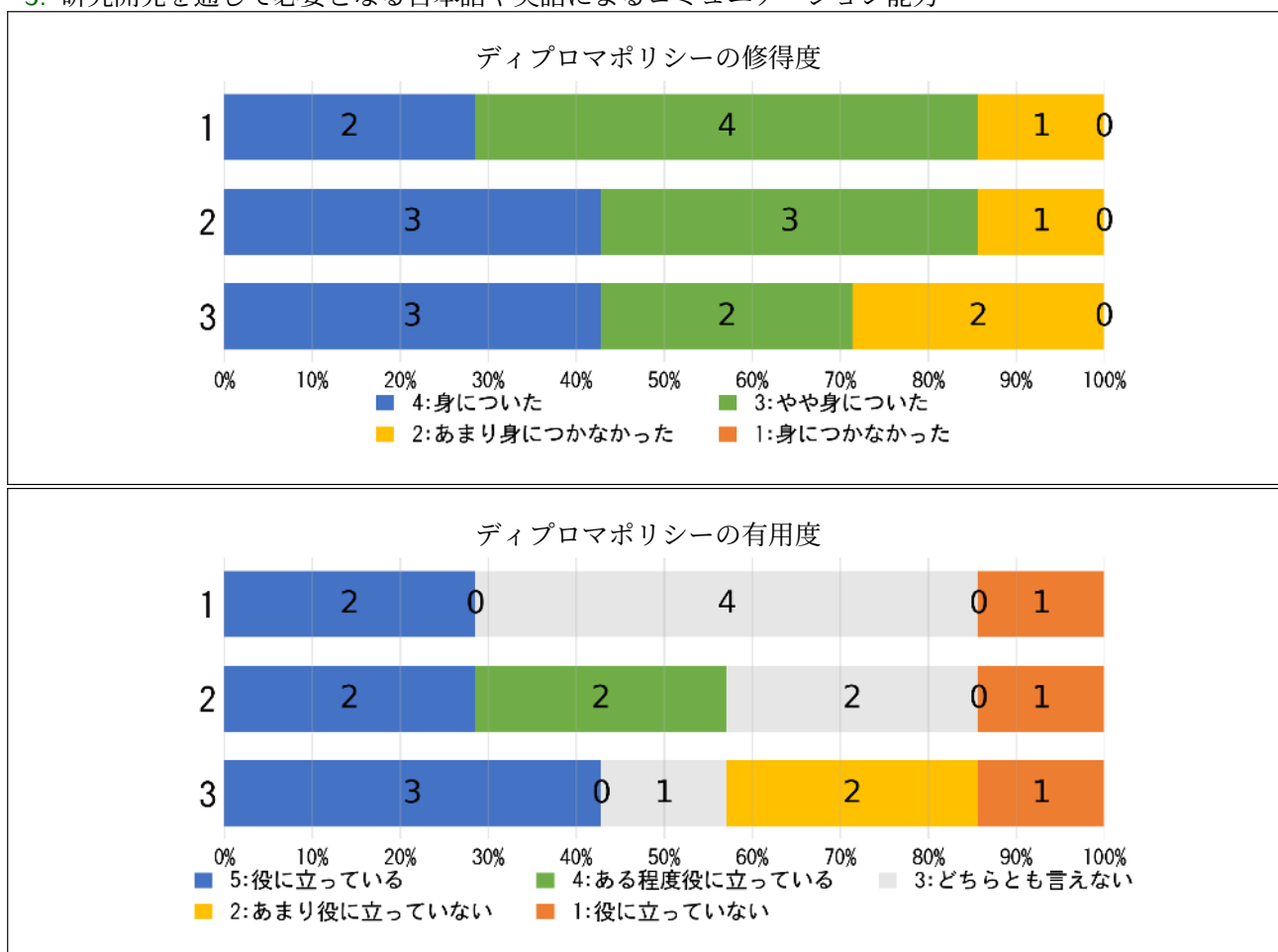
●社会環境システム工学分野

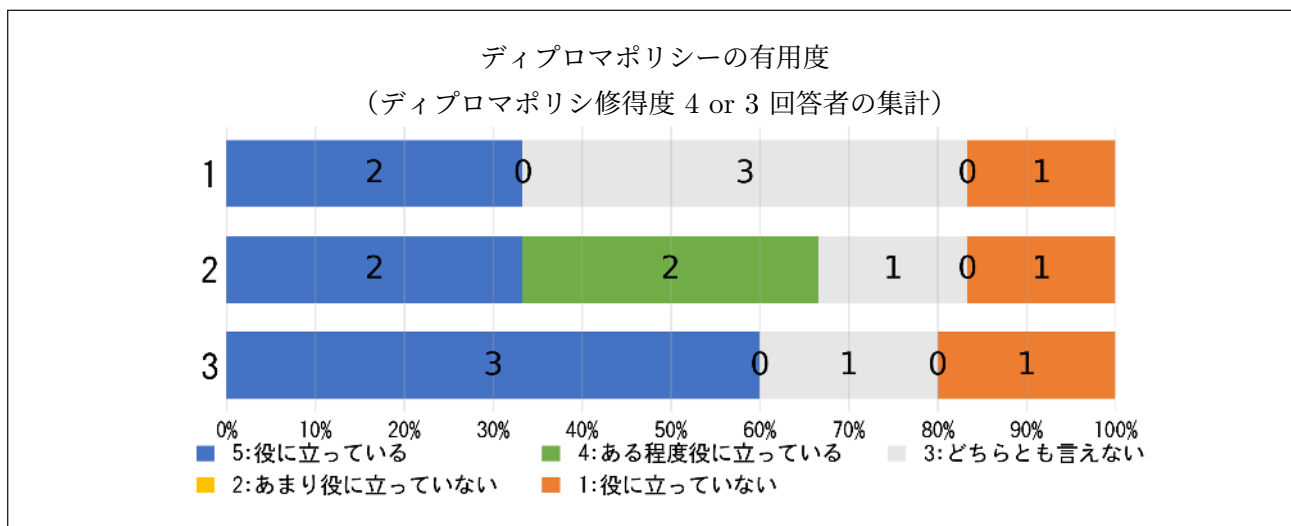
1. 社会環境システム工学分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	3	42.9
⑫ 電気・ガス・熱供給・水道業	1	14.3
⑰ 金融業	1	14.3
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	14.3
㉔ その他	1	14.3
Total	7	100.0

2. 社会環境システム工学分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探索し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

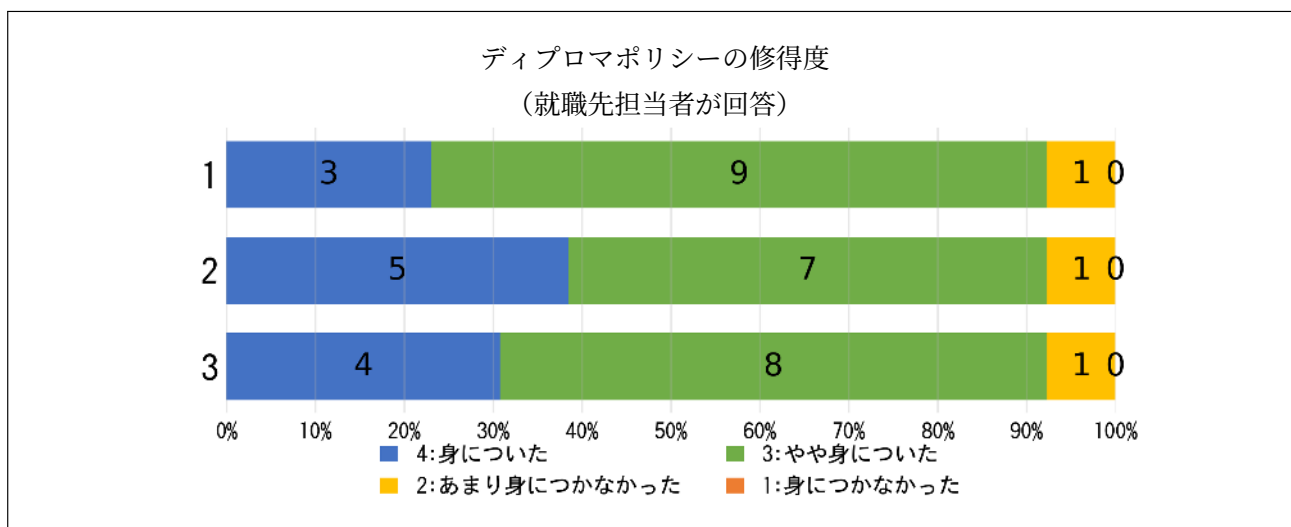




3. 社会環境システム工学分野の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	10	76.9
②⑩ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	2	15.4
②⑪ 国家公務員	1	7.7
Total	13	100.0

4. 社会環境システム工学分野の就職先アンケート結果



5. 社会環境システム工学分野の調査結果評価

修了生 7 名から回答があった。ディプロマポリシーの習得度は、いずれの項目も「身についた」、「やや身についた」が 70 % 以上であり、問題はない。ディプロマポリシーの有用度は、「身についた」、「やや身についた」の割合は 30～55 % とやや低かった。ただし、「2. 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力」に関しては、半数以上の修了生が有用であったと回答した。一方、就職先からの回答では、「身についた」、「やや身についた」の割合はいずれの項目でも 90 % 以上であり、問題ないと判断された。

以上より、学部学生のアンケート結果も同様であるが、土木分野の業務内容が広範囲であることから、

修了学生の半数は大学院でつちかった高度な専門的知識を、修了後4年目では十分に活用できていないと感じていることがうかがえた。一方、就職先では、修士修了学生に対する能力は非常に高く評価されていることから、設定されたディプロマポリシーの有用性は問題ないと判断できる。

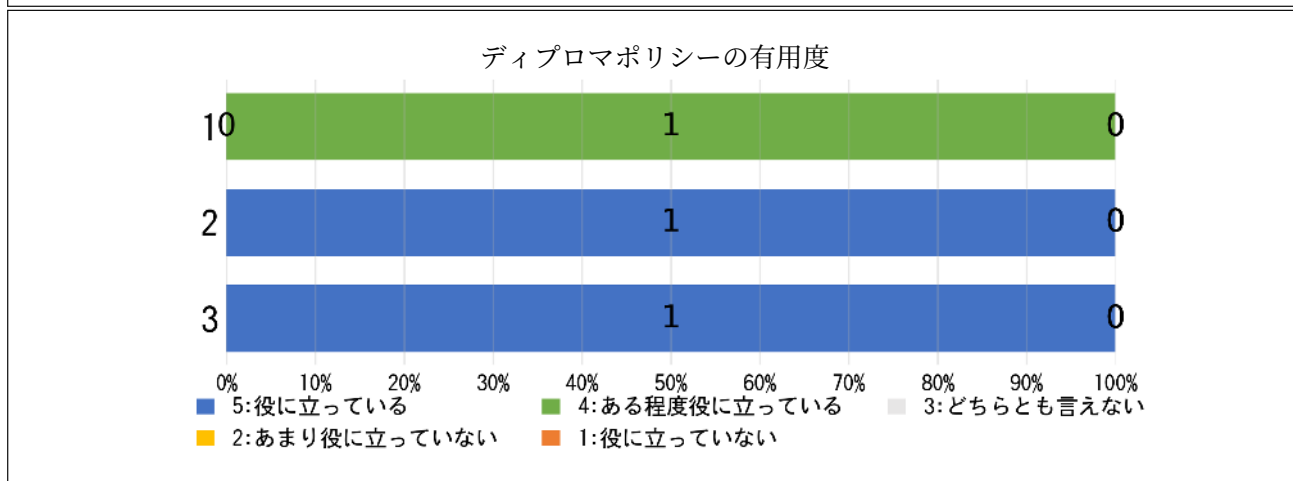
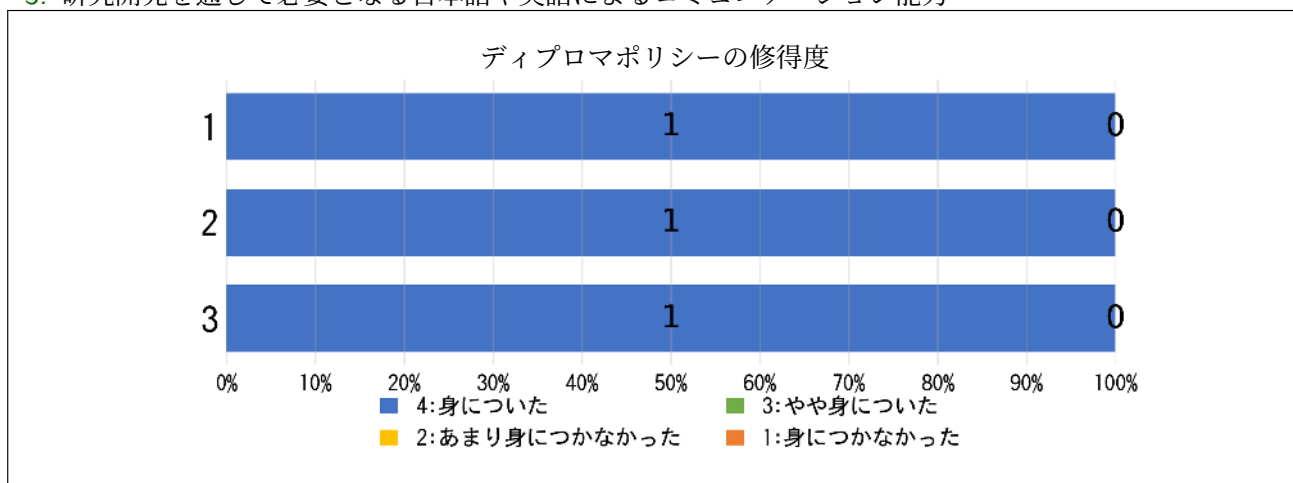
●環境ロボティクス分野

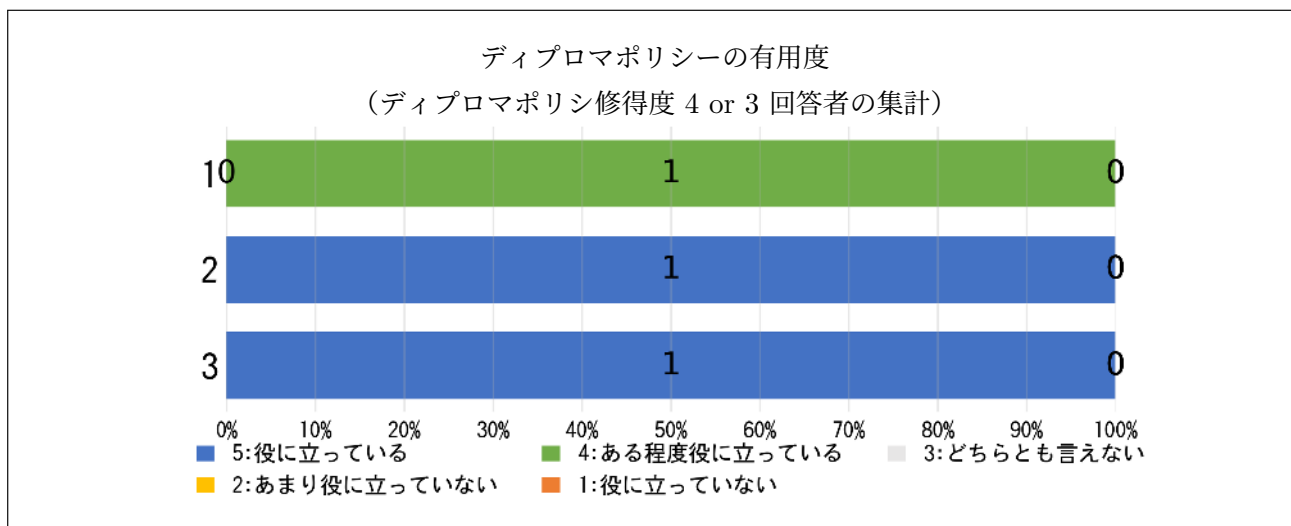
1. 環境ロボティクス分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑬ 情報通信業	1	100.0
Total	1	100.0

2. 環境ロボティクス分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

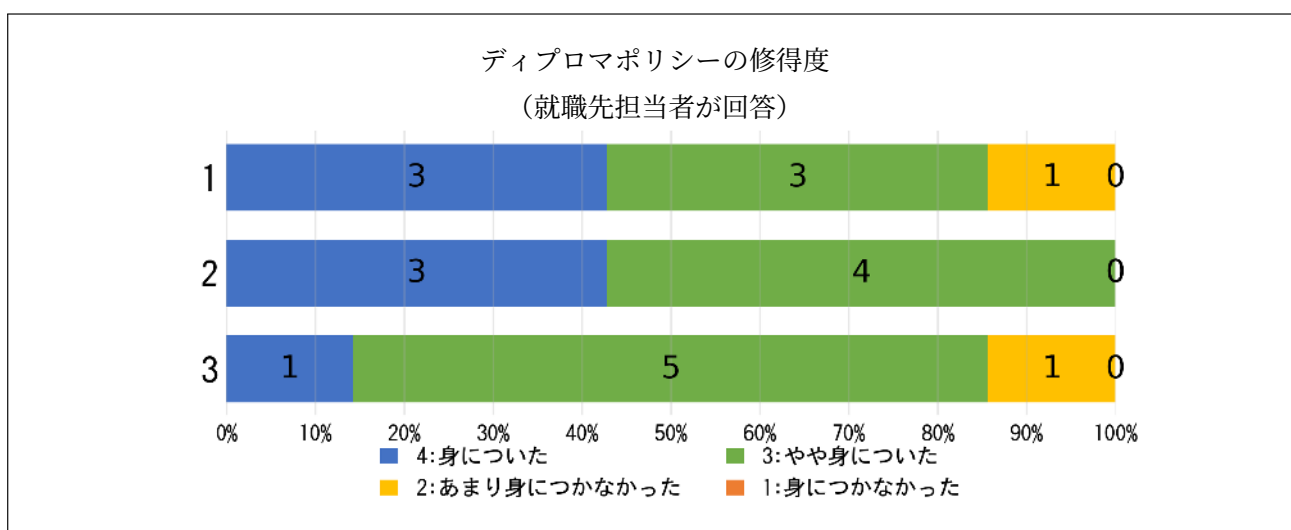




3. 環境ロボティクス分野の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	28.6
⑪ その他の製造業	2	28.6
⑬ 情報通信業	2	28.6
⑳ その他	1	14.3
Total	7	100.0

4. 環境ロボティクス分野の就職先アンケート結果



5. 環境ロボティクス分野の調査結果評価

就職先のアンケート結果より、「研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力」の修得度が他のディプロマポリシーより低めではあるが、全体的に身につけているとの評価を頂いた。

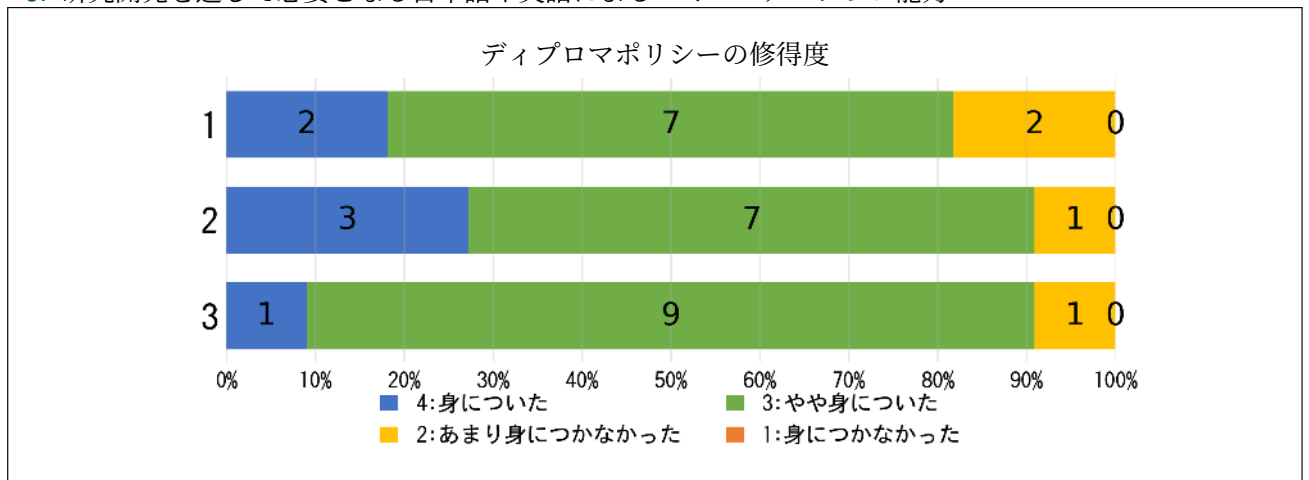
●機械設計システム工学分野

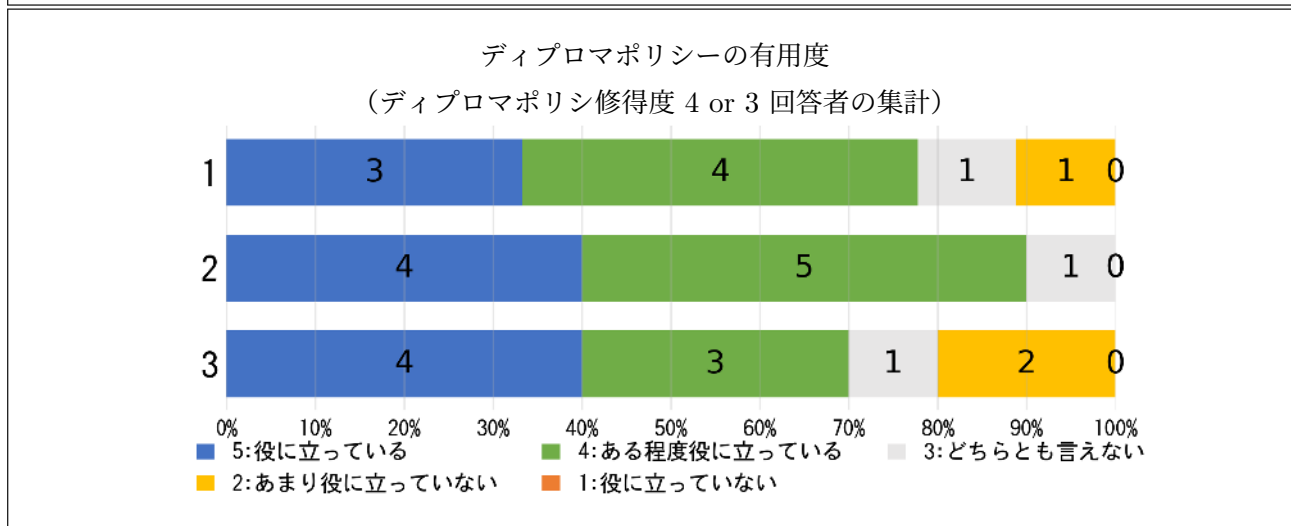
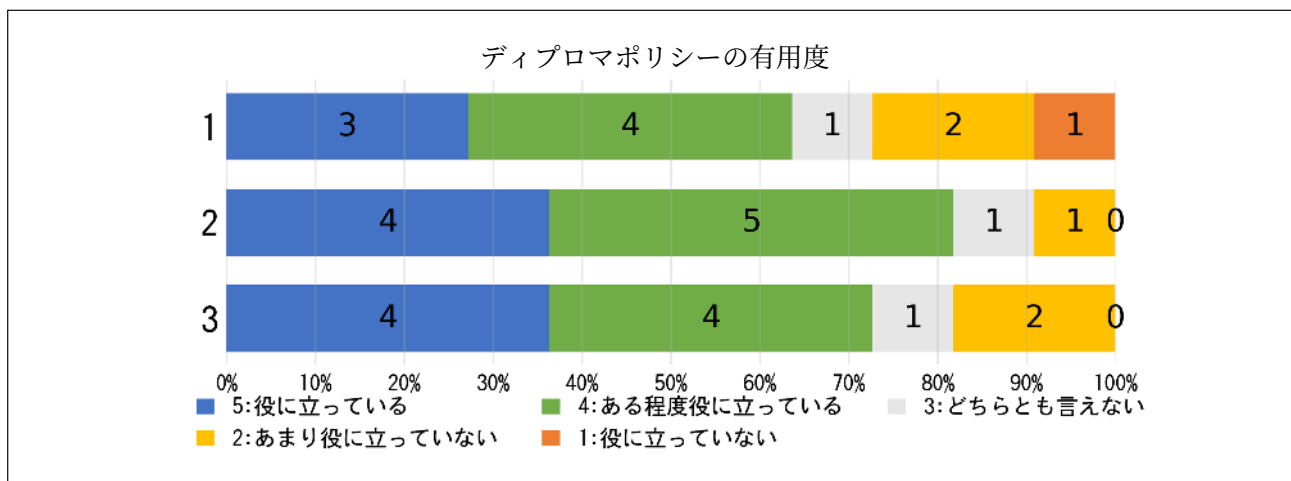
1. 機械設計システム工学分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	18.2
② 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	1	9.1
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1	9.1
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	9.1
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	1	9.1
⑩ 輸送用機械器具製造業	1	9.1
⑪ その他の製造業	1	9.1
⑫ 国家公務員	1	9.1
⑬ 地方公務員	1	9.1
⑭ その他	1	9.1
Total	11	100.0

2. 機械設計システム工学分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

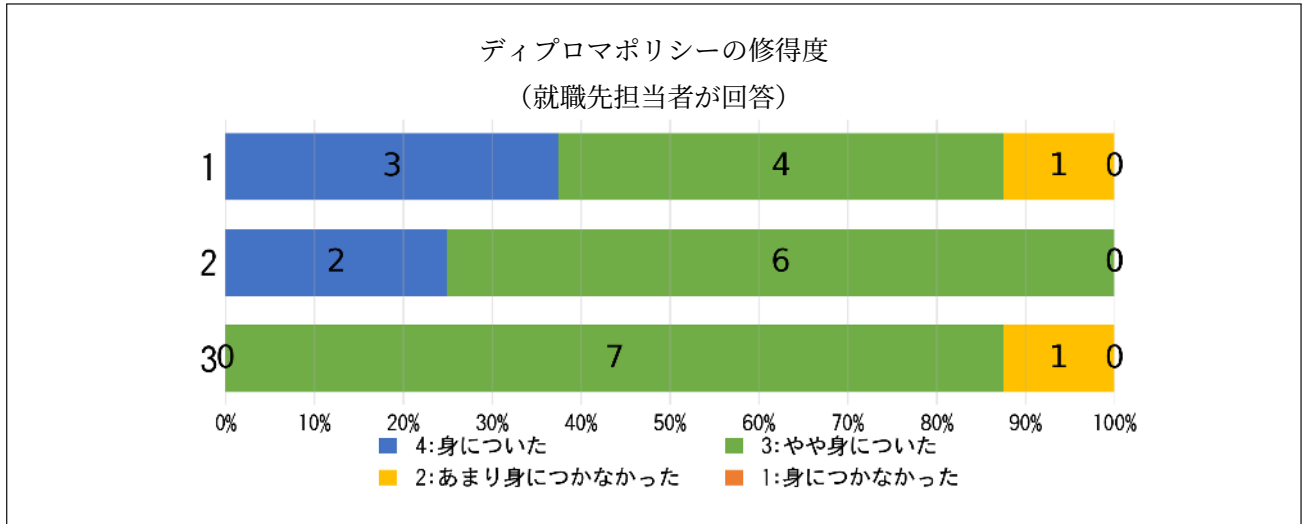




3. 機械設計システム工学分野の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑥ 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	1	12.5
⑦ はん用・生産用・業務用機械器具製造業	1	12.5
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	12.5
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	2	25.0
⑩ 輸送用機械器具製造業	1	12.5
⑪ その他の製造業	1	12.5
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	12.5
Total	8	100.0

4. 機械設計システム工学分野の就職先アンケート結果



5. 機械設計システム工学分野の調査結果評価

1) 回答者の業種から見た評価

修了生の業種別回答者については、回答数の人数割合は修了生の就職先業種別の人数割合を反映していないが、工学研究科の目指している分野の就職先からのものである。

2) ディプロマポリシーについて

修了生が評価するディプロマポリシーの修得度については、すべて肯定的であり、特に2の能力の評価が高い。よって、修了生の多くは、自ら課題を探求し、修士課程で修得した高度専門知識を課題解決に活用できる能力が備わっていると自己評価している。ディプロマポリシーの有用度については、少し評価が下がるものの修得度と同様の傾向が見られる。このことから、多くの修了生は、修士課程で修得した高度専門知識やコミュニケーション能力を就職先で活用しているものと考えられる。

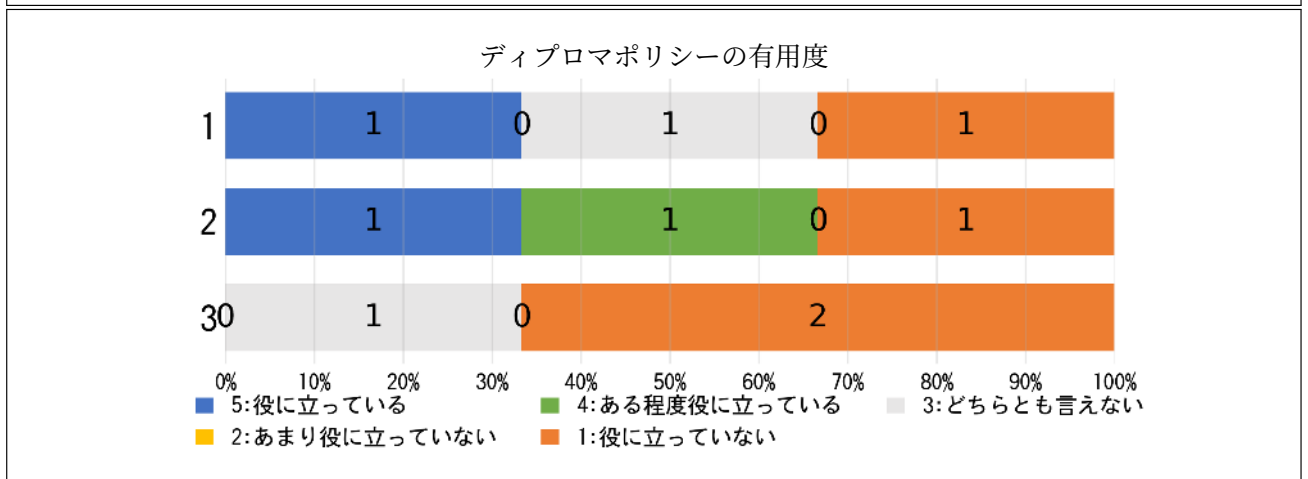
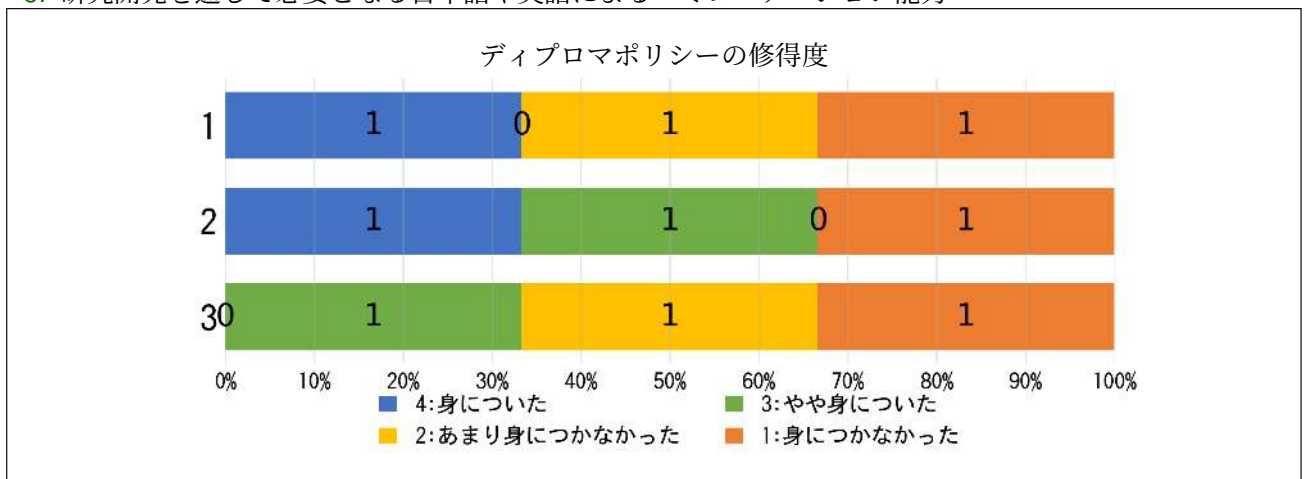
●電子物理工学分野

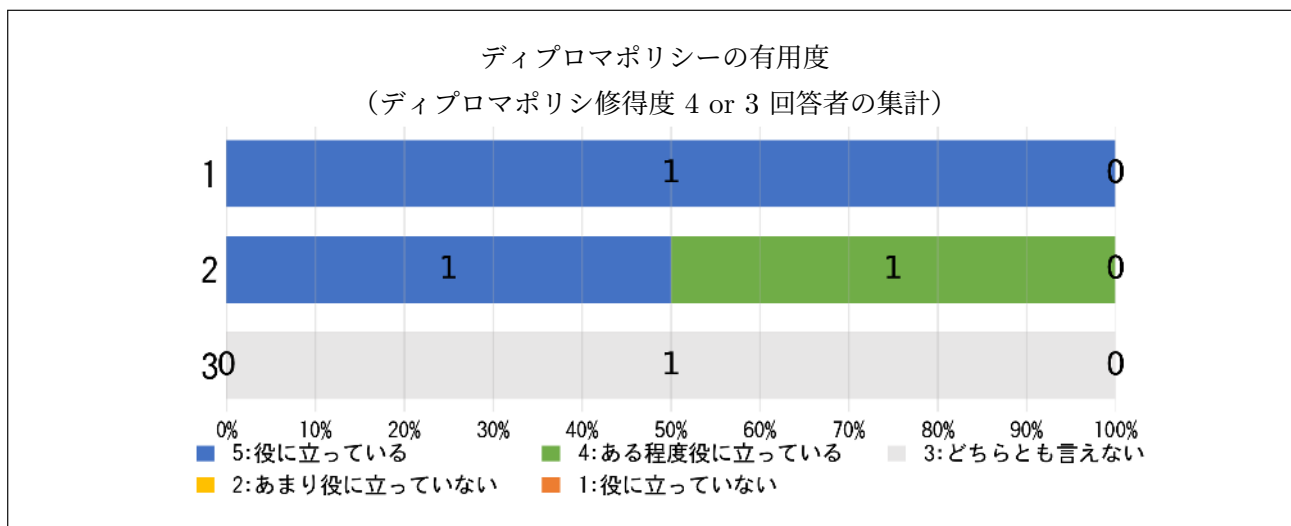
1. 電子物理工学分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	33.3
⑫ 電気・ガス・熱供給・水道業	1	33.3
⑳ 国家公務員	1	33.3
Total	3	100.0

2. 電子物理工学分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

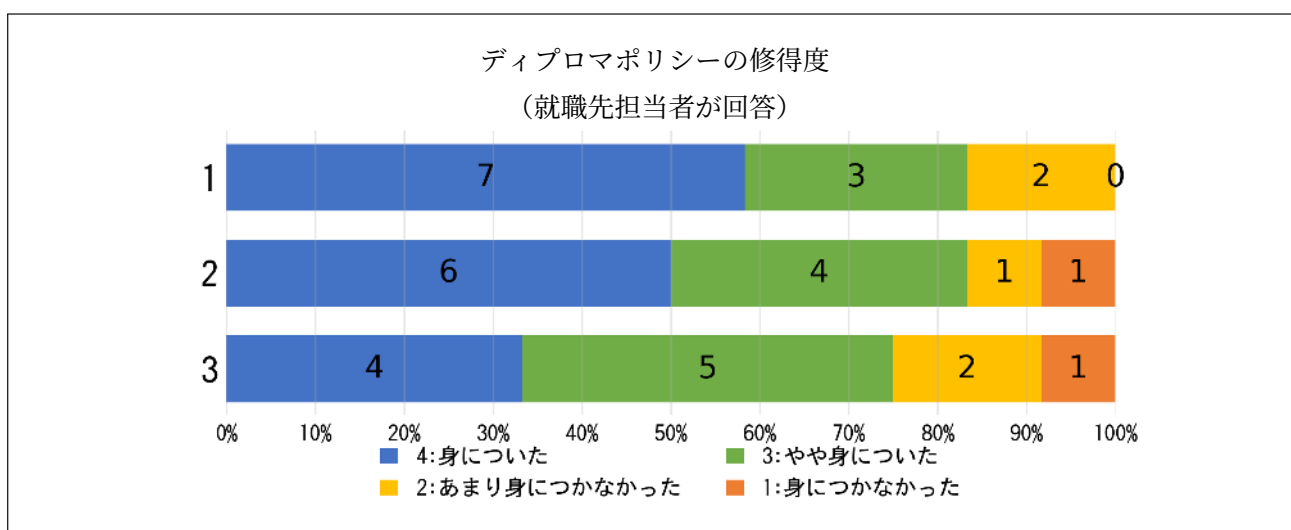




3. 電子物理工学分野の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	2	16.7
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	4	33.3
⑩ 輸送用機械器具製造業	4	33.3
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	2	16.7
Total	12	100.0

4. 電子物理工学分野の就職先アンケート結果



5. 電子物理工学分野の調査結果評価

1) 修了生の業種から見た評価

- 回答者数が少ないため、電子物理分野の目指している業種に就職しているかを判断できない。

2) ディプロマポリシーについて

- 修了生の回答数が少ないため修得度については判断が難しいが、項目 3 (研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力) については修得できなかったと判断できる。
- 有用度については、修得できなかった項目 3 が低かった。

- 就職先担当者の回答では、全ての項目で高い修得度であったと判断できる。

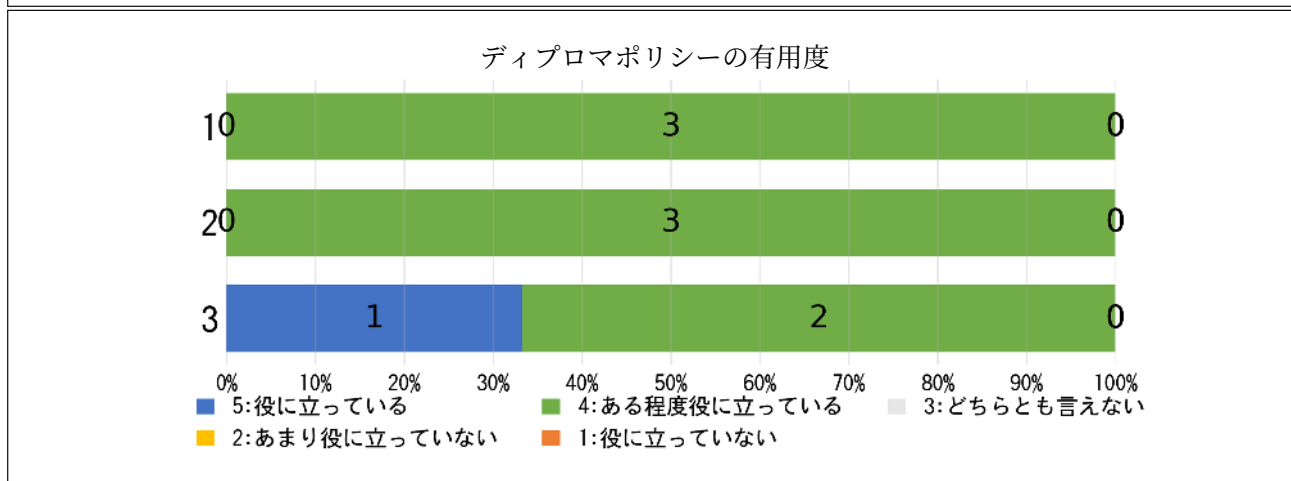
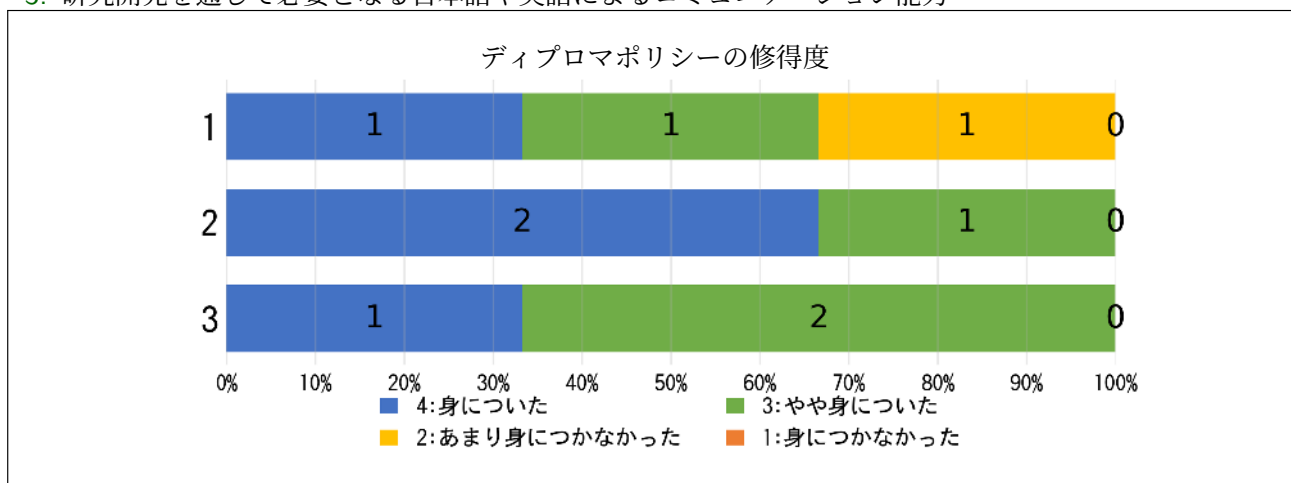
●電気システム工学分野

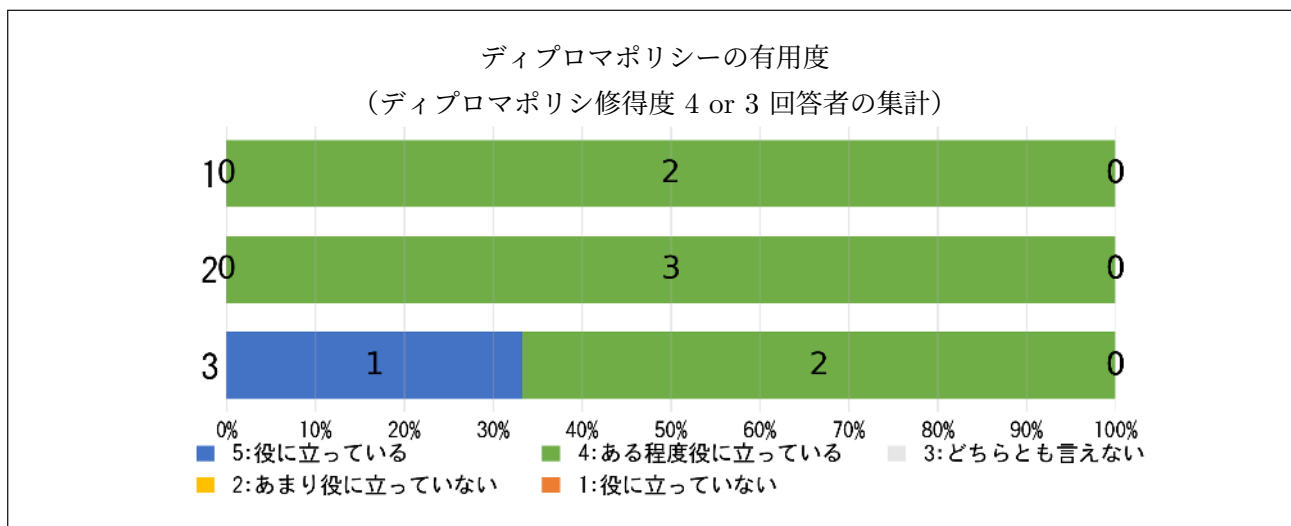
1. 電気システム工学分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	3	100.0
Total	3	100.0

2. 電気システム工学分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力





3. 電気システム工学分野の就職先の業種別回答者数

(該当なし)

4. 電気システム工学分野の就職先アンケート結果

(該当なし)

5. 電気システム工学分野の調査結果評価

1) 修了生の業種から見た評価

回答者数が少ないが、(別途、就職先を調査した結果) 修了生は、電気システム工学分野で修得した専門知識を活かすことができる業種に就職していた。

2) ディプロマポリシーの習得度について

3つのディプロマポリシーにおいて、多くが肯定的に回答している。

3) ディプロマポリシーの有用度について

3つのディプロマポリシーにおいて、多くが肯定的に回答している。

以上の結果から、大部分の修了生は工学専攻が掲げたディプロマポリシーを身につけていると判断できる。

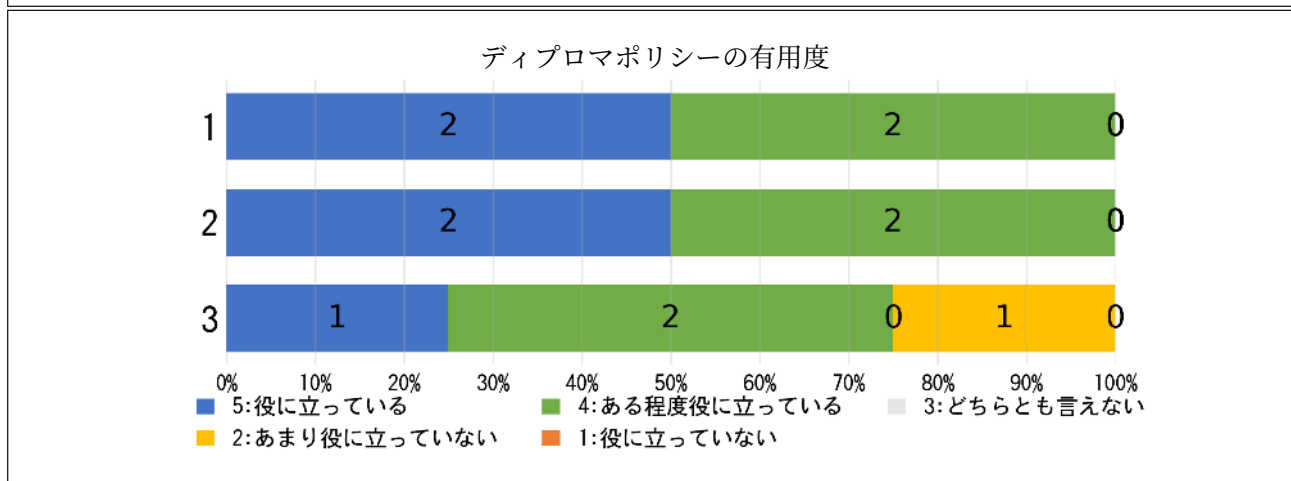
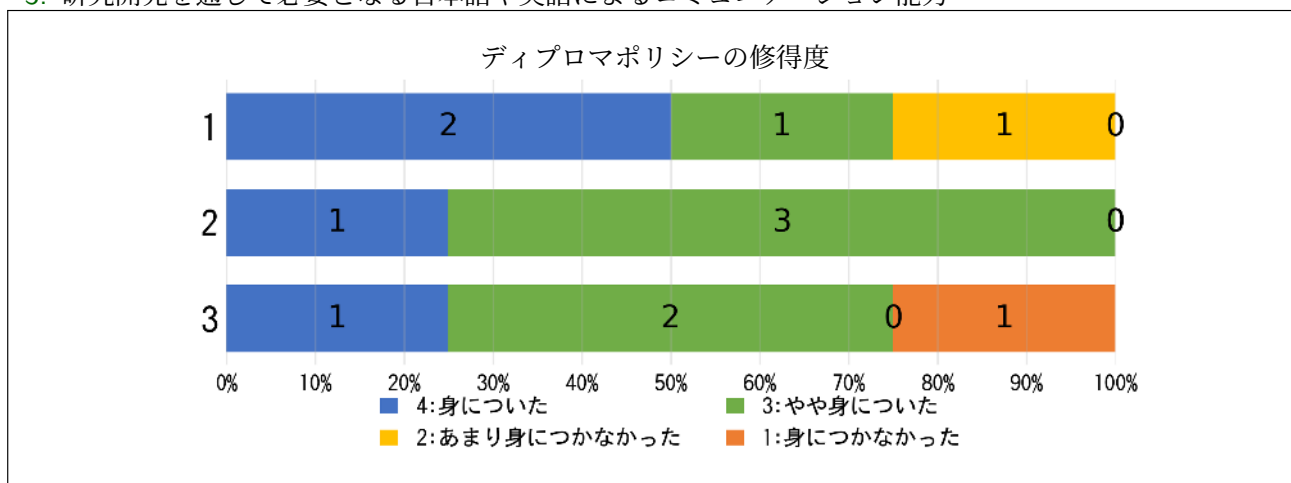
●情報システム工学分野

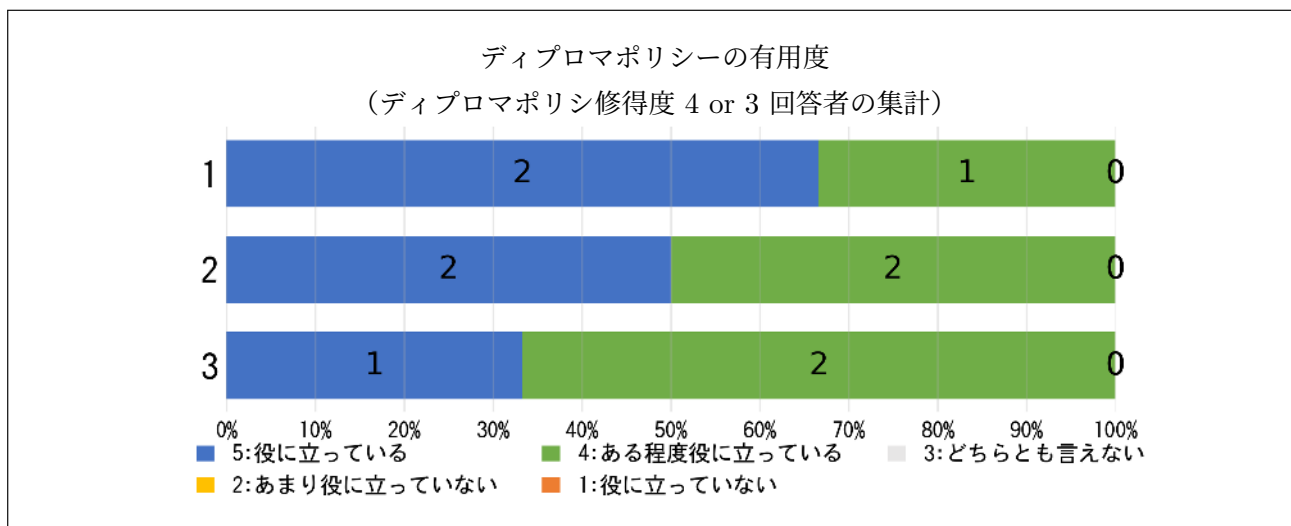
1. 情報システム工学分野の修了生の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
⑬ 情報通信業	4	100.0
Total	4	100.0

2. 情報システム工学分野の修了生アンケート結果

- 1: 工学分野の高度専門知識を修得して応用できる能力
- 2: 自ら課題を探求し、その解決に向けて高度専門知識を活用し主体的に考える能力
- 3: 研究開発を通じて必要となる日本語や英語によるコミュニケーション能力

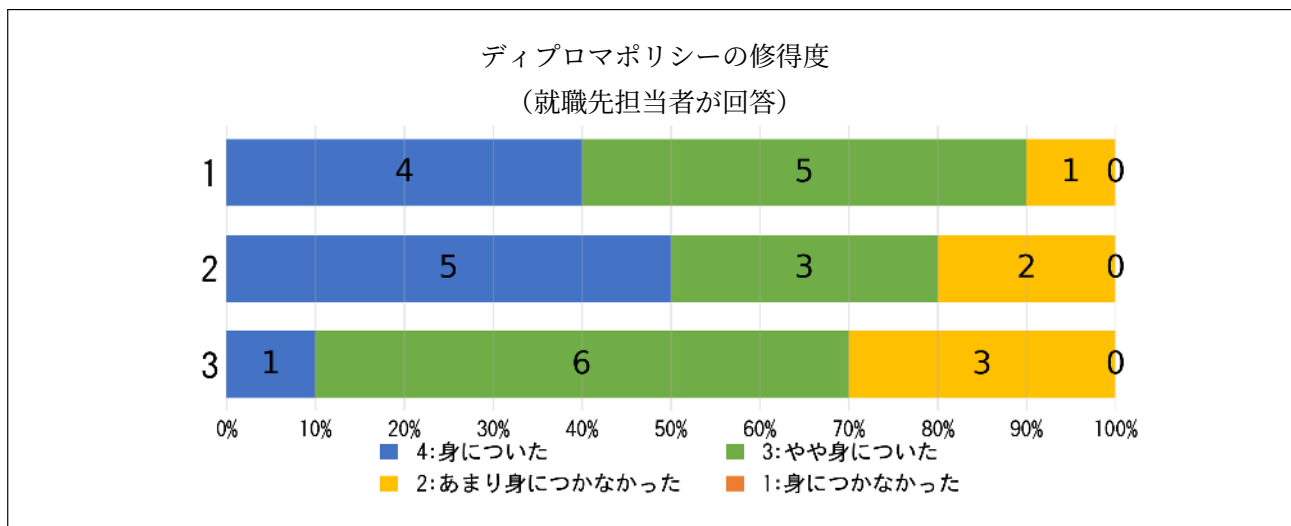




3. 情報システム工学分野の就職先の業種別回答者数

業種名	回答数	割合 (%)
① 建設業	1	10.0
⑧ 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1	10.0
⑨ 電気・情報通信機械器具製造業	2	20.0
⑬ 情報通信業	5	50.0
⑳ その他の専門・技術サービス業 (建設コンサルタントを含む)	1	10.0
Total	10	100.0

4. 情報システム工学分野の就職先アンケート結果



5. 情報システム工学分野の調査結果評価

1) 修了生の業種から見た評価

アンケート回答者は4名であり少ないが、全員が情報通信業で働いている。このことから、分野のキャリアラム設計方針については、とくに問題はないと考える。

2) ディプロマポリシーについて

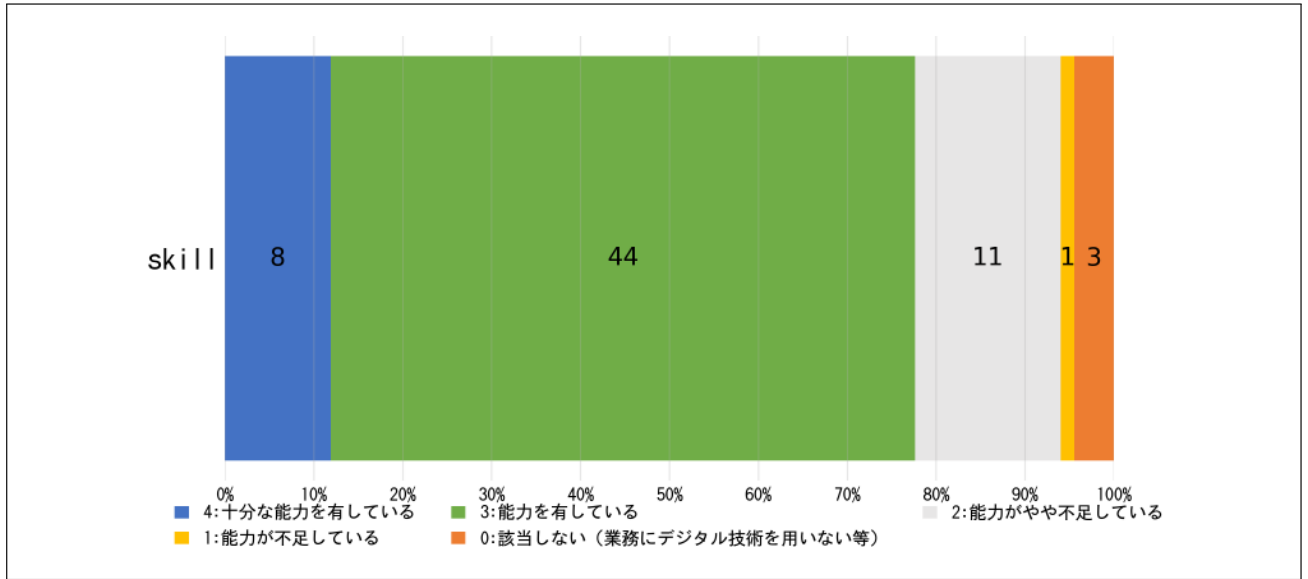
修得度については、すべてのディプロマポリシーに関して、75%以上の修了生が身につけている（「身

についた」または「やや身についた」と回答している。有用度については、ディプロマポリシー 1, 2 については、すべての修了者が有用である（「役に立っている」または「ある程度役に立っている」と回答している。また、ディプロマポリシー修得度が高いすべての学生が、すべての項目について有用である（「役に立っている」または「ある程度役に立っている」と回答している。就職先担当者へのアンケート結果からは、日本語・英語によるコミュニケーション能力に難がある修了生の存在がうかがえる。

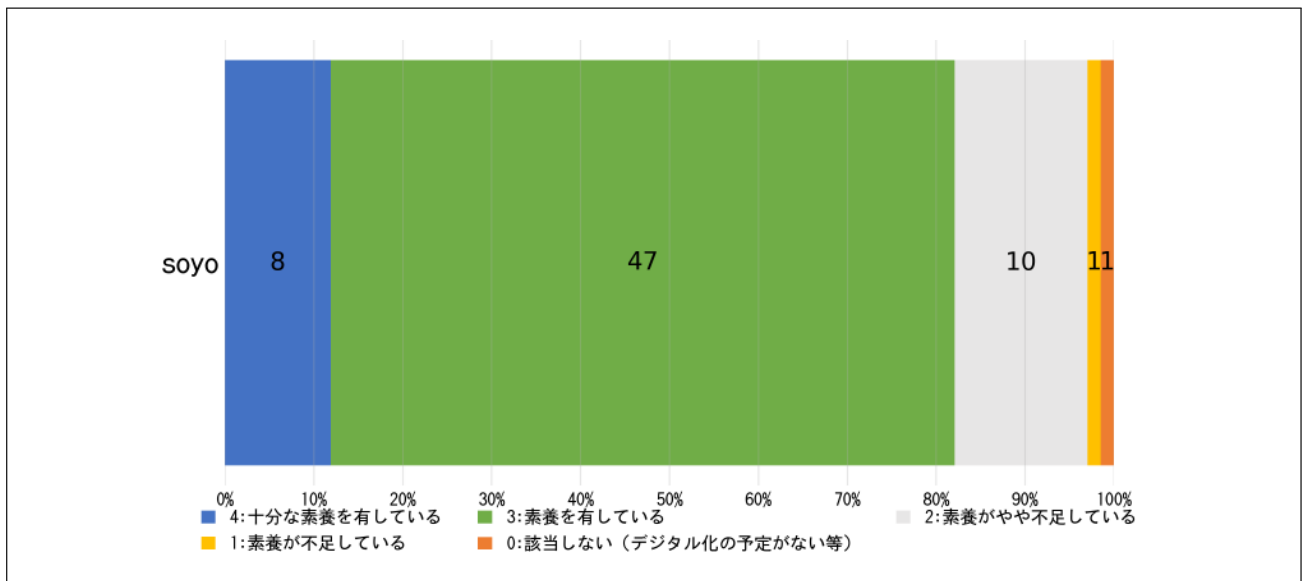
以上から、現在の情報システム工学分野のカリキュラム設計には特に問題はないと考える。

産業 DX

Q1. 宮崎大学工学部卒業生は、貴社の事業において、デジタル技術を用いた業務遂行能力を有していますか



Q2. 宮崎大学工学部卒業生は、貴社のデジタル化の発展 (DX 推進) に貢献できる素養を有していますか



【調査結果評価】

DX の業務遂行能力と DX 推進の素養のいずれについても、身につけているという回答が 8 割程度と高かった。産業 DX 推進のための教育プロジェクト開始前の時点での評価であるが、これまでの教育の中でもデジタル技術の活用スキルは育成しており、工学部卒業生は、産業 DX 分野においても十分なポテンシャルを持っていると評価できる。